

2024年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2024

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド
③

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM
③

番号 No.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
国立大学 National University				
28	名古屋大学 Nagoya University	愛知県名古屋市 Nagoya-shi, Aichi	 1	(b)
29	三重大学 Mie University	三重県津市 Tu-shi, Mie	 4	(a)
30	京都大学 Kyoto University	京都府京都市 Kyoto-shi, Kyoto	 7	(a)
31	京都教育大学 Kyoto University of Education	京都府京都市 Kyoto-shi, Kyoto	 10	(a)
32	大阪大学 Osaka University	大阪府吹田市 Suita-shi, Osaka	 13	(a)
33	大阪教育大学 Osaka Kyoiku University	大阪府柏原市 Kashiwara-shi, Osaka	 16	(b)
34	神戸大学 Kobe University	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo	 19	(a)
35	奈良教育大学 Nara University of Education	奈良県奈良市 Nara-shi, Nara	 22	(a)(b)
36	奈良女子大学 Nara Women's University	奈良県奈良市 Nara-shi, Nara	 25	(a)
37	和歌山大学 Wakayama University	和歌山県和歌山市 Wakayama-shi, Wakayama	 28	(b)
38	兵庫教育大学 Hyogo University of Teacher Education	兵庫県加東市 Kato-shi, Hyogo	 31	(a)

番号 N0.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
39	鳥取大学 Tottori University	鳥取県鳥取市 Tottori-shi, Tottori	 34	(a)
40	島根大学 Shimane University	島根県松江市 Matsue-shi, Shimane	 37	(a)(b)
41	岡山大学 Okayama University	岡山県岡山市 Okayama-shi, Okayama	 40	(b)
42	広島大学 Hiroshima University	広島県東広島市 HigashiHiroshima-shi, Hiroshima	 43	(b)

<Note>

1. 「研修コース」(Type of Course)

(a) ... 主に日本事情・日本文化に関する研修
A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture

(b) ... 主に日本語能力の向上のための研修
A course intended mainly to improve Japanese language proficiency

2. 具体的な研修内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。
If you have questions about the detail of the training program, please contact the university directly.



名古屋大学 (愛知県)

実践的な日本語力の向上、日本社会・日本文化の更なる理解をめざす

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

名古屋大学は日本の高等教育研究機関として、主要な国立大学の一つです。本学は、中部地方の政治・産業・文化の中心である名古屋市にあります。本学の歴史は医学部と病院が発足した1871年にさかのぼります。長年の変遷を経て、1949年には新制大学になり、現在9学部・13大学院研究科・3附置研究所・図書館・19共同教育研究施設等が設置されています。また、外国人留学生の宿舎としてインターナショナルレジデンス大幸等合計5カ所が設置されています。

2) 教員・学生数等 (2022年5月1日現在)

学部：文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部、工学部、農学部

大学院：人文学研究科、教育発達科学研究科、法学研究科、経済学研究科、情報学研究科、理学研究科、医学系研究科、工学研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、多元数理科学研究科、環境学研究科、創薬科学研究科

教職員数：3,196名

学生数：学部等 9,547名 大学院 6,355名
計 15,902名

② 国際交流の実績

- 1) 留学生在籍数：2,589名 (102カ国・地域) (2022年度)
- 2) 研究者等受入数：398名 (50カ国・地域) (2022年度)
- 3) 学術交流協定数：480 (2023年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績 (各年5月1日現在)

2023年：留学生数 2,140人、
日本語・日本文化研修留学生 7人
2022年：留学生数 2,039人、
日本語・日本文化研修留学生 6人
2021年：留学生数 1,937人、
日本語・日本文化研修留学生 8人

④ 地域の特徴

名古屋市は、日本三大都市圏の一つを形成する人口230万人の都市です。日本の中心にあり、国外や日本各地への交通の便に恵まれています。市の中心部から大学キャンパスまで地下鉄で約15分、東京までは新幹線で1時間半、京都まで40分で行くことができます。

また、豊かな自然環境のなかに、活気ある都会の姿と伝統的な文化遺産が共存する都市でもあります。周囲を山や海に囲まれ、年間を通して様々なアウトドアスポーツや文化イベントを楽しむことができます。近年、名古屋市はJポップカルチャーの中心地としても注目を集めています。

大都市でありながら、物価は比較的安く静かな街並みで、留学生活を送るのに暮らしやすい地域です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化研修留学生のためにデザインされた研修プログラムを提供する。専門的な知識および体系的な言語学習を盛り込んだプログラムを提供する。

1. 日本語の学習

・日研生対象の専門授業および言語教育センターで開講している日本語クラスを受講することによって、日本語の技能別能力の向上を図るとともに専門知識を学ぶ。

・教室内外での学習を通して、実践的な日本語力を身に付けることができる。

2. 研究者志向の留学生への対応

・レポート作成法、入門講義 (「日本語学」「多文化共生」「日本語コミュニケーション論」「日本文学」など) 等の授業を通して、各分野の基礎知識・研究方法が学べる。

③ 受入定員

20名 (大使館推薦17名、大学推薦3名)



④ 受講希望者の資格、条件等

1. 中級レベル以上の日本語力を有すること（「日本語能力試験」N2相当以上）。
2. 日本語・日本語学・日本語教育学・日本文学・日本学（日本研究）を主専攻とすること、またはそれらの分野に強い関心をもつこと。
3. 勤勉で学習熱心な人物。文化の架け橋となることへの意欲を有する人物。

⑤ 達成目標

1. 上級レベルの日本語力の習得（話す、聞く、読む、書く、のすべてにわたる）。
2. 日本、日本文化、日本社会に対する的確な理解。
3. 各自の専門分野に通じる基礎的な知識と研究方法の習得。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年10月1日 ～ 2025年9月30日
（原則、2024年10月1日～2025年9月30日）
修了式は9月上旬～中旬を予定

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日、開講式、オリエンテーション

10月～翌年2月初旬：秋学期の授業（日本語、日本事情、日本文化の関連科目）

12月下旬～1月上旬：冬季休業

2月～3月：春季休業

3月上旬：研究テーマ発表会

4月～8月上旬：春学期の授業（日本語、日本事情、日本文化の関連科目）

8月中旬～9月：夏季休業、研修成果レポート執筆

9月上旬：研究成果発表会（2023年度は9月4日）・修了レポート提出

9月上旬～中旬：修了式（2023年度は9月5日）

9月中旬：帰国



⑨ コースの修了要件

プログラムの必須科目44単位をすべて取得し、選択科目を4単位以上取得する。コース修了者には修了証書が与えられる。成績証明書が発行可（単位互換は学生の本国の在籍大学の判断による）。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語日本文化研修留学生のための体系的なプログラムにより、上級レベルの日本語力を身につけ、日本語・日本文化に対する理解を深める。全ての科目を通して学問探求の基礎力を養う。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

A. 日本語・日本文化特別プログラム（科目名は年により変更の場合がある）
（年間225時間、150コマ、20単位）

1. 「日本語総合演習Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語総合演習Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
2. 「レポート作成法Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「レポート作成法Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
3. 「日本語学Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語学Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
4. 「日本論入門」（前期15コマ、2単位）
「日本近現代文学入門」（後期15コマ、2単位）
5. 「言語文化の多様性入門」（前期15コマ、2単位）
「言語文化の多様性概論」（後期15コマ、2単位）

B. 研究修了レポート（4単位）

C. 日本語技能別クラス（上級レベル）

（年間225時間、150コマ、20単位）

「文法Ⅰ、Ⅱ」「会話Ⅰ、Ⅱ」「聴解Ⅰ、Ⅱ」
「読解Ⅰ、Ⅱ」「作文Ⅰ、Ⅱ」

D. 教養科目

「留学生と日本～異文化を通しての日本理解」
（前期22.5時間、15コマ、2単位）



II) 選択科目・内容

入門講義（以下は2023年度の科目例。年により変更の場合がある。）

1. 「日本語コミュニケーション論Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語コミュニケーション論Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
2. 「多文化共生論Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「多文化共生論Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
3. 「日本文学Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本文学Ⅱ」（後期15コマ、2単位）

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

愛知県や東海地方の産業や伝統文化の理解を深めるために地域の見学を実施する。郡上八幡城、有松絞商工協同組合の協力を得て体験見学等を実施する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

全学共通科目「留学生と日本～異文化を通しての日本理解」「多文化コミュニケーション論」「レポート・論文作成法」等の授業を聴講することができる。これらの授業において日本人学生と討論や協働作業を行うことによって日本社会や日本文化に対する相互理解を深める。

⑪ 指導体制

専任教員が学業の指導教員として、日本語の学習支援及び研究活動のためのきめ細かな指導・助言を行っている。チューター制度を活用し、大学における勉強や日本での生活をサポートする。

留学生のためのアドバイジング専門の教員が、生活面のきめ細かな指導・助言を行っている。



■宿 舎

1. インターナショナルレジデンス大幸 (地下鉄で30分)

所在地：名古屋市東区大幸南1丁目1番18

施 設：鉄筋コンクリート8階建、

単身室(13㎡)224室、夫婦室(31㎡)4室、
多目的室、交流スペース(兼ダイニングキッチン)、洗濯室、ピザ店、事務室等があり、
各室にはバス、トイレ、デスク、チェア、電気スタン
ド、マットレス、ベッド本体(収納付き)、
洋服棚、冷蔵庫、エアコン等が備え付けられてい
ます。

2. インターナショナルレジデンス東山(大学構内)

※現在は留学生の入居を停止しています。

所在地：名古屋市千種区不老町1番地

施 設：鉄筋コンクリート居住棟6・7・8階建、
管理棟2階建

留学生用…単身室(16㎡)95室、夫婦室(34㎡)25室
研究者用…夫婦室(34㎡)15室、家族室(51㎡)2室
談話室、図書室、会議室、和室、洗濯室、多目的
室、事務室等があり、各室には、台所、バス、
トイレ、ベッド、洋服ダンス、収納庫、机、椅子、
エアコン、冷蔵庫、靴箱等が備え付けられていま
す。



3. インターナショナルレジデンス山手ノース

(徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区高峯町165

施 設：鉄筋コンクリート3階建

留学生用…単身室(15㎡)104室
多目的ルーム、コインランドリー等があり、
各室には台所、バス、トイレ、ベッド、カーテ
ン、オープン、クローゼット、収納棚、机、椅子、
卓上電気スタンド、エアコン、冷蔵庫、網戸、
電子レンジ等が備え付けられています。

4. インターナショナルレジデンス山手サウス

(徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区高峯町165

施 設：鉄筋コンクリート7階建

留学生用…単身室(7㎡)112室
台所(オープンリビング)、冷蔵庫、電子レンジ、
バス、トイレ、コインランドリー等があり、
各室には、ベッド、オープンクローゼット、
収納棚、机、椅子、卓上電気スタンド、網戸、
エアコン、カーテン等が備え付けられています。

5. 石田記念インターナショナルレジデンス妙見

(徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区妙見町40

施 設：鉄筋コンクリート5階建

留学生用…単身室(15㎡)93室
台所、バス、トイレ、ベッド、
カーテン、机、椅子、エアコン、
卓上電気スタンド、電子レンジ、
冷蔵庫、収納庫、コインランドリー
等が備え付けられています。



■修了生へのフォローアップ

在学中より進路相談を行っている。修了生は本
プログラムの経験をいかして様々な方面で活躍し
ている。本学大学院(人文、法、経済等)をはじめ
各国大学院への進学、日系企業への就職、通
訳・翻訳者等。帰国後は大学の同窓会への参加、
大学の留学生との交流およびネットワーク構築に
貢献すること。

■問合せ先

<担当部署>

名古屋大学教育推進部学生交流課

住所 〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

TEL +81-(0)52-789-2198 (直通)

FAX +81-(0)52-789-5100

E-mail iess@t.mail.nagoya-u.ac.jp

<ウェブサイト>

名古屋大学

<https://www.nagoya-u.ac.jp/>

言語教育センター

<http://jp.ilc.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/>

コース概要

<http://jp.ilc.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/japanese/ipaj.html>



三重大学 (三重県)

将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、
国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

◆三重大学は総合大学で、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は地域イノベーション学研究科を加えた6研究科があり、キャンパスは津市にあります。自然環境に恵まれ、キャンパスのすぐ東側では海岸に波が打ち寄せ、北西には鈴鹿の山が連なります。

◆学生数・教員数

学部学生数：5,884名

大学院生数：1,217名

教員数：750名

外国人留学生数：261名（36カ国）

〈2023年5月1日現在〉

◆環境先進大学

本学は国際規格である ISO 14001 の認証を受けて様々な環境マネジメントシステムを構築しています。

②国際交流の実績

◆三重大学は、外国の111大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報の交換などを行っています。

〈2023年4月1日現在〉

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	留学生	日研生
2023年度	261名	5名
2022年度	203名	4名
2021年度	174名	5名



三重大学上浜キャンパス



伊賀上野城



三重大学国際交流センター



なばなの里

④地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約27万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、大阪へのアクセスは約1時間半、京都へは約2時間、東京へも約3時間です。

◆三重県は、歴史や文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となってきました。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も三重県にあります。

◆県内には多くの史跡や名勝があり、観光客もたくさん訪れます。「伊勢神宮」を中心とした歴史的建造物、古い宿場町や歴史街道も残っています。また、伊賀は忍者の里として有名で、熊野古道は2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内にある「鈴鹿サーキット」は、「日本のモータースポーツの聖地」と言われてきました。世界各国から多くのファンが集まります。また「なばなの里」は、世界最高峰の花のテーマパークで、イルミネーションは、世界最高峰のクオリティと最新LED技術で多くの人を魅了します。

◆三重大学国際交流センターは、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、及び地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

- ◆将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指している人のためのコースです。
- ◆地域住民及び三重大学生、在日外国人や留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。
- ◆それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマや、基礎的な研究方法やレポートの書き方について学ぶことができます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦1名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

- (1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。
- (2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化研究を通して、母国と日本の「架け橋」となれる学生の育成。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬～2025年8月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

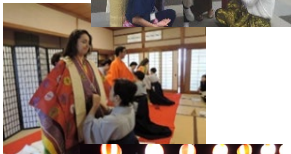
◆秋学期（後期）

9月下旬 渡日／オリエンテーション
日本語レベル判定試験
10月 授業開始
11月 大学祭
12月 国際交流デイズ
2月 期末テスト
中間発表会



◆春学期（前期）

4月 授業開始
7月 最終発表会
8月 盆踊り大会
研修レポート提出
修了式／帰国



⑨ コースの修了要件

日本語日本文化演習AB及び各レベルの必修科目及び選択科目から、各学期合計7科目以上受講し、また日本語による研修レポートの執筆と研修発表（中間発表会・最終発表会）をします。成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。コース修了が認められた学生には、成績証明書および修了証書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

◆日本語や日本文化、または三重県に関するテーマを決めて、担当教員の指導のもと研究または実践活動を進めます。



2月中旬：中間発表会
7月中旬：最終発表会
8月下旬：研修レポート提出



◆研修が始まる前に、日本語レベル判定試験を受けます。その結果により中級Ⅱレベルと上級レベルに分かれます。自分のレベルに合わせて、中級Ⅱから上級レベルの日本語科目を受講して学習します。

2) 研修・コース開設科目（全て90分×16回／学期）

I) 必修科目

◆中級Ⅱレベル

授業名	内容
(1) 文法・読解	日本語の文章(文学、評論、随筆、自然科学)を読むことで、その面白さを味わい理解できるようになる。自分の好きな日本の文学作品等を1つ選び、その本の紹介をする(課題)。
(2) 作文	大学の専門分野の学習への橋渡しとして、高度な文章を総合的に読解できる力をつける。
(3) 聴解・会話	映画・アニメーション・ドラマ等の視聴を通して、生の日本語を聞き取り、意見交換を通して聴解・会話を高める。
(4) 文法	中・上級レベルの文法を理解し、また自身の発話等の中で産出できる実践的な能力を養う。
(5) 読解	読解演習を通し、語彙や文法事項を文章の中で理解し、また文章全体の趣旨を理解する能力を育む。
(6) 会話	データやグラフ等の資料から自分の意見を述べ、ディスカッションや発表する力を涵養する。
(7) 日本事情Ⅰ：三重の社会と文化	日本と三重県の社会文化環境を、学外研修などを通して楽しみながら理解する。

◆上級レベル

授業名	内容
(8) 上級総合日本語Ⅰ	学術的な小論文の書き方の基礎を学ぶ。また、実際に小論文を書く。
(9) 上級総合日本語Ⅲ：留学生と学ぶ日本	三重大学生とのディスカッションを通して、日本社会・文化への理解を深めたり、自分の意見を発表したりする。
(10) 日本語・日本文化演習	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。

◆上級レベルの人は中級Ⅱの授業科目を、中級Ⅱレベルの人は中級Ⅰの授業科目を選択科目として受講することもできます。

Ⅱ) 選択科目 (英語による科目)

授業名	内容
(11) 日本事情Ⅱ : 英語で学ぶ文化	様々な文化的事象をディスカッションを通して学ぶ。
(12) 世界遺産と私たち	ユネスコ世界遺産とその価値について学ぶ。
(13) 環境問題と地球	世界の環境問題と、社会持続性について学ぶ。
(14) 英語でエッセイ	事例やデータに基づいた説得力のあるエッセイの書き方を学ぶ。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

以下の科目では、三重県のような場所を訪ねて地域の文化について学びます。

◆日本語による科目

日本事情Ⅰ：三重の社会と文化（＝表Ⅰ(7)）

4) 日本人学生との共修がある科目及びその具体的な内容

以下の科目では日本人学生と共に学ぶことができます。

◆日本語による科目

上級総合日本語Ⅲ：留学生と学ぶ日本（＝表Ⅰ(9)）

◆英語による科目

日本事情Ⅱ：英語で学ぶ文化（＝表Ⅱ(11)）

世界遺産と私たち（＝表Ⅱ(12)）

環境問題と地球（＝表Ⅱ(13)）

英語でエッセイ（＝表Ⅱ(14)）

⑪ 指導体制

◆福岡昌子教授（専門：音声・第二言語習得）

◆松岡知津子准教授（専門：文法）

◆正路真一助教（専門：心理言語学・第二言語習得）

■宿 舎

三重大学には現在留学生用の宿舎が三つあります。「外国人留学生寄宿舍」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

①外国人留学生会館（1988年建設）

月額 8,440円～15,440円

②外国人留学生寄宿舍（2009年建設）

月額 12,540円～30,000円

③国際女子学生寄宿舍（1973年建設）月額 5,900円



（上-左）外国人留学生寄宿舍 外観
（上-右）外国人留学生寄宿舍 共用キッチン
（下-左）外国人留学生寄宿舍 居室の共用ダイニング
（下-右）国際女子学生寄宿舍 居室

■修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流デイズでイベントを開く予定です。

■その他の学習支援体制

◆日本語チューター

三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。

◆てらこやサークル

三重大学生による日本語学習のボランティアサークルです。一緒に会話の練習をしたり、日本語の宿題をみてもらうことができます。

■ホストファミリー・プログラム

希望する留学生は「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日と一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持てる可能性があります。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



■問合せ先

<担当部署>

三重大学国際・情報部国際交流チーム

住所： 〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577

TEL： +81-59-231-9688（直通）

FAX： +81-59-231-5692

Email： ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>

三重大学国際交流センター：

<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>

三重大学：

<http://www.mie-u.ac.jp/>



シロモチくん
（津市PR
キャラクター）



006-



京都大学 (京都府)

学問・文化に全身全霊を注ぐ実り多き1年を

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 京都大学は1897年の開学以来個性的でアカデミックな学風を打ち立て、現在もその精神は健在である。今日では、10学部、18大学院研究科、30を超える研究所やセンターおよび図書館、病院等を有する日本有数の総合大学として、学術・文化の発展に貢献している。

2) 京都大学の教員数は、2023年5月1日現在3,475名であり、12,852名の学部学生、9,574名の大学院生が、吉田、宇治、桂の3キャンパスに分かれて勉学、研究に励んでいる。

教授	准教授	講師	助教	助手
1045	888	285	1256	1

(2023年5月1日現在)

② 国際交流の実績

京都大学では2023年5月1日現在、109ヶ国・地域からの、2,988名の留学生が学んでいる。国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターはこれらの学生の勉学・研究を、教育・生活の面から支援している。

京都大学は、国際交流の拠点大学として54ヶ国・地域・機関の180大学3大学群15機関と大学間協定を提携しながら、学術国際交流を推進している(2023年4月1日現在)。部局間学術交流協定を締結している機関数も723に上り、日常的に学術国際交流が可能な環境が整備されている。これらの機関からの交換留学生の受入れや日本人学生の海外留学を推進しつつ、世界的な視野で考え、行動できる学生の養成に大学全体として力を入れている。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年: 留学生数 2,988人、日研生 14人
2022年: 留学生数 2,766人、日研生 22人
2021年: 留学生数 2,667人、日研生 21人

④ 地域の特徴

京都は美しい自然に恵まれ、千年有余の歴史と豊かな伝統を誇る古都として世界的に有名であるが自由闊達な精神を育んできた学術の街としても知られる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、将来日本をフィールドにしながら、教育・研究分野、外交分野、国際機関、多国籍企業等での人的交流のかなめとなる役割を担うことが期待される人材を養成する京都大学のプログラムである。



↑ 百周年記念時計台 (吉田キャンパス本部構内)

自国で日本語や日本文化を学んでいる学生が、1年間京都大学に留学することによって、日本語だけでなく、多様な日本の文化や現代社会に接し、理解を深めるプログラムを提供する。

更に、世界各国からの学友との共学や、課題研究への取り組みを通して、世界を視野に入れた幅広い思考力と実践力を育成する。

③ 受入定員

18名 (大使館推薦14名、大学推薦4名)

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 資格

日本語能力試験 (JLPT) N2以上を保持し、在籍大学で日本語・日本文化を専攻している学生であること。

2) 条件

京都大学の研修プログラムでは日本人学生とほぼ同等の内容の講義が、ナチュラルスピードの日本語で行われる。また修了論文作成の一環として文献を読み、研究・調査を行い、発表することになっており、最終的に論文を執筆する。プログラム参加者にはこれらを受講し、修了研究論文作成を行うことのできる日本語運用能力が求められる。更に、研修プログラムを受講するための基礎的知識・学力を備えていることが望ましい。

⑤ 達成目標

このプログラムでは、日本社会・文化に対する知見を深め、同時に学術レベルの高度な日本語力の修得を到達目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2024年9月下旬～2025年9月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間
2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日
9月26日	履修ガイダンス（予定）
9月30日	開講式（予定）
10月上旬	図書館利用ガイダンス
10月下旬	奈良東大寺見学
11月上旬	和菓子作り体験
11月下旬	街並み散策・町家見学
12月上旬	企業見学
12月上旬	歌舞伎鑑賞会
12月中旬	能楽鑑賞会
12月中旬	裁判所見学・裁判傍聴
1月上旬	京都国立博物館見学
2月中旬	実地見学旅行（1泊2日）
4月中旬	茶道体験
4月下旬	俳句作り・句会
5月上旬	通訳教室
5月下旬	庭園見学
6月上旬	高校訪問
6月中旬	文楽鑑賞教室
6月下旬	書道教室
7月上旬	産経新聞大阪本社訪問
7月中旬	祇園祭見学
7月下旬	座禅体験
7月下旬	修了研究発表会
9月12日	修了式（予定）
9月下旬	帰国

⑨ コースの修了要件

本プログラムに1年間在籍し、次のa)、b)、及びc)を満たした学生に対し、本プログラムの修了を認定し、修了証書を授与する。

a) 次の各分野の必修、選択必修科目から計32単位以上を修得すること。日本文化科目：選択必修12単位、日本語科目：必修16単位、日本語・日本文化研究論文作成演習：必修4単位

b) 日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文を提出し、審査に合格すること。（4単位）

c) 合計90時間の日本文化研修に参加すること。

修了判定は国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター運営委員会にて行う。
上記授業科目の成績を記載した履修証明書を発行すると共に、修了要件を満たした学生には修了証明書を授与する。
母国大学の学期開始のため早期帰国が必要な学生は、帰国前に修了研究論文第1稿を提出し、帰国後に完成稿を提出することを条件に、8月中旬以降の早期帰国が認められる。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

授業科目名		必修・選択	単位数		時間数
			I期	Ⅱ期	
a) 必修・選択科目					
日本文化科目	日本社会論	選択必修	6 (最大取得可能な単位数:10)		30
	現代日本の社会問題				30
	日本の経済				30
	日本の法と政治				30
	日本の歴史と文化				30
	人文・社会科学科目群 推奨科目	選択必修	6 (推奨取得単位数:8)		各 30 時間
日本語科目	日本語概論	必修	2		30
	日本語アカデミック・リーディング	必修	2		30
	日本語アカデミック・ライティングⅠ	必修	2		30
	日本語アカデミック・ライティングⅡ	必修		2	30
	日本語アカデミック・プレゼンテーションⅠ	必修	2		30
	日本語アカデミック・プレゼンテーションⅡ	必修		2	30
	日本語の歴史	必修	2		30
	日本語教育演習	必修		2	30
修了研究	論文作成演習Ⅰ	必修	2		30
	論文作成演習Ⅱ	必修		2	30
b) 修了研究論文		必修		4	
c) 日本文化研修					90

1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは、日本に対する理解を深めることを目的に、日研究生専用の日本文化科目や日本人学生と共に学ぶ人文・社会科学科目群推奨科目を履修する。

また、京都の豊かな伝統と文化を直接体験する日本文化研修を実施している。更に、日本語・日本文化研究論文作成演習やアカデミック・ジャパニーズ科目を通して、調査・研究に必要なアカデミックスキルや高度な日本語力の修得を目指す。また、自らの関心事を切り口に日本を探究する修了研究に励むことにより、学習を通して得られた知見の更なる深化を図る。

2) 研修・コース開設科目

1) 必修科目（10科目、300時間）

- ・日本語概論

人称表現、授受表現、配慮表現などを考察対象としながら、日本語の特徴について学ぶ。

- ・日本語アカデミック・リーディング

学術論文や専門書の構造を理解し、必要な情報を素早く、且つ的確に読み取るリーディング・スキルの習得を目指す。

- ・日本語アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ

実践的練習を行いながら、論文・学術レポートを日本語で書く上で必要な知識・技能を習得する。

- ・日本語アカデミック・プレゼンテーションⅠ・Ⅱ

日本語でのアカデミック・プレゼンテーションのための日本語技能を高め、構成力、表現力等を習得する。

- ・日本語の歴史

日本語がどのように生まれ変化してきたのか、どのような表記を用いていたのか、どのような発音であったのかなど、日本語の歴史について学ぶ。

- ・日本語教育演習

文学部・文学研究科の学生と共に「魅力的な日本語」及び習得が困難な日本語の学習項目を選定し、それらを多角的に分析しながら、興味を喚起する指導法や正確な習得を促進する指導法を探る。

- ・日本語・日本文化研究論文作成演習Ⅰ・Ⅱ

各学期 4クラスずつ開講。日本をテーマにした論文を作成するために必要な資料の収集方法や扱い方、論文作成の方法を個別に指導する。本科目の一環として論文構想発表会、中間発表会、修了発表会を実施し、研究の中間・成果報告を行う。

・日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文
日本に関わるテーマについてオリジナリティのある論文を執筆する。執筆した論文を「日本語・日本文化研修留学生報告書」として発行している。

2) 選択必修科目（日本文化に関する日研生専用科目：5科目中3科目を履修、90時間）

・日本社会論

日本の伝統社会が各時代を通じて、どのように変化してきたのか、その過程において“近代化”が果たした役割とは何かについて理解する。

・現代日本の社会問題

人口構造・ジェンダー・雇用・不平等に焦点を当てつつ、現代社会問題の歴史的変遷と現状を把握する。

・日本の経済

標準的なマクロ経済学概念および手法を身に付け、それに基づいて日本経済で過去起きたこと、現在起きていることを理解する。

・日本の法と政治

日本法の歴史を踏まえつつ、日本政治の実際の動きについて知見を深める。

・日本の歴史と文化

古代から現代に至る日本の文化を、文学、歴史、哲学、美術等の多面から考察する。長い歴史を経て、日本のさまざまな文化的所産がいかに形成され、また時代の流れとともにいかに変貌を遂げてきたかを考える。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

日本、とりわけ京都の文化の特質や歴史的変遷を理解することを目的に各学期45時間の日本文化研修を行う。同研修は原則的に事前講義と体験から構成されており、文化の担い手や高校生等との地域交流も含まれる。

4) 日本人学生との共修等の機会

・選択必修科目（3科目、90時間）

京都大学全学共通科目の中から日本語・日本文化研修留学生用に選定された推奨科目より各学期2～3科目を選択して履修する。日本人学生と共に学ぶこれらの科目は、文学、言語、教育、法・政治、

歴史、社会の諸分野より自らの専攻分野や関心に沿って選択できる。

・大学院生の日本人チューターがグループ活動の形で、日研生の学習や生活のサポートを行う。

① 指導体制

1) 日本語・日本文化研修留学生は京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターの科目等履修生として在籍し、本学で認定した単位を修得する。

2) 日本語・日本文化研修留学生の指導は日本語・日本文化教育センターの教員を中心に担当する。
プログラム主任教員：

ルチラ パリハワダナ（国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、教授・専門：日本語学・日本語教育学）

プログラム副主任教員：

湯川 志貴子（国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、准教授・専門：日本古典文学）

その他日本語・日本文化教育センター専任教員数名が主として指導にあたる。

■宿 舎

すべての日本語・日本文化研修留学生は、京都大学国際交流会館修学院本館、百万遍国際交流会館（いずれも京都市左京区）等の留学生・外国人研究者用の寮に入居することができる。家賃は単身室で月2万円～3万円台で、入居日は9月末の平日、退去日は9月中旬頃となっている。また、民間アパートを希望する学生は、京都市内のアパートを自分で探すこともできる。家賃は月平均4万円程度であるが、入居の際には敷金・礼金を支払う制度があり、家賃1～3か月分程度の費用が別に必要となることが多い。



←新聞記事
作成に挑戦

2021年10月～2024年9月までの3年間における日本語・日本文化研修留学生の宿舎入居実績は57名中56名である。

■修了生へのフォローアップ

修了日研生の主たるキャリアパスとして、日本企業・日系企業への就職、大学院進学やその後の教育・研究分野でのキャリア、外交官などが挙げられ、母国と日本をつなぐ架け橋として、グローバルに活躍している。

日研生が本学で修得した単位を母国大学の卒業課程の単位として振替できるよう、修了後に必要な証明書の発行や情報提供を行っている。

修了日研生に対し、日本の大学院への進学のサポートや必要に応じて就職等のための推薦を行っている。

また、修了日研生との日常的な交流を絶やさないように努めており、メールでの連絡を通じた近況把握・アドバイシングの実施、修了日研生が渡日した際や担当教員が協定校等を訪問する際の面会などを行っている。本学大学院進学者に対しては後輩に情報を提供する機会を作ることにより、日研生同士のネットワーク作りを手助けしている。更に、修了日研生の出身大学の教員と交流を深めることを通して、ネットワークの強化に努めている。

■問合せ先

<担当部署>

京都大学国際高等教育院附属

日本語・日本文化教育センター

担当事務：国際・共通教育推進部留学生支援課

日本語教育掛

住所：〒606-8501

京都府京都市吉田二本松町

TEL： +81-(0) 75-753-9586（直通）

FAX： +81-(0) 75-753-3316

Email： A30kyomuj@mail2adm.kyoto-u.ac.jp

<ウェブサイト>

京都大学日研生ウェブサイト：

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/japanese/toku>

京都大学国際高等教育院：

<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>



京都教育大学 (京都府)

「体験しよう！京都」 Experiencing Kyoto Program at Kyoto University of Education (EKYP at KUE)

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

京都教育大学は、1876年（明治9）年に創設された京都府師範学校を受け継ぎ、147年の歴史と伝統を有しています。

本学は、教員養成単科大学ですが、学部には、教育学、国語、社会、理科、美術、音楽、体育をはじめ、13の専攻がある「教育の総合大学」です。大学院としては、京都の10の大学が連合し資質の高い教師を育てる「連合教職実践研究科」が設置されています。

キャンパスの面積は14万㎡で、緑が多く自然に恵まれています。附属施設として、6つの附属学校、図書館、教育資料館などがあります。



緑の美しいキャンパス
大学内の桜並木は3月末に満開になります。

② 国際交流の実績

大学間交流協定数 6（中国、韓国、カダ、ドイツ等）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 23人、日研生 7人

2022年：留学生数 17人、日研生 5人

2021年：留学生数 19人、日研生 9人

④ 地域の特徴

京都を日本を代表する古都で、世界遺産に選ばれた多くの文化財、豊かな精神文化を有する街です。また、現代的な京都駅ビルの建築やマンガミュージアムも有名です。古い歴史と新しい文化がともに体験できる街だと言えます。

大学のある伏見区は京都市の南部に位置しています。伏見は数々の歴史ドラマの舞台となった街です。とくに酒の産地として有名で、いまでも古い酒蔵が残っています。

大学のすぐ近くには、5月5日の端午の節句の発祥の地である藤森神社や、赤い鳥居が美しい伏見稲荷大社があります。

大学から京都の街の中心部までは電車で15分程度で、交通も大変便利です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

教育は文化であり、文化は教育によって継承されます。「体験しよう！京都」は、教育を切り口に日本を体験的に理解することを目的としたプログラムです。

大学での授業を受ける以外に、コミュニティ・ラーニングなどを通じて地域の人々と交流する機会をたくさん準備しています。日本語の実践力を向上させるとともに、教科書の中の日本とはちがう、自分なりの視点から日本に対する理解を深めることができます。

③ 受入定員

11名（大使館推薦10名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ 原則として、日本語・日本研究等を専攻する者
- ・ 日本語能力試験（JLPT）のレベルN3以上に合格している者

⑤ 達成目標

<日本語>

終了時にCEFRまたはJFスタンダードB2に相当するレベル (CEFR: Common European Framework for Reference, JF: Japan Foundation)

<日本文化>

日本文化を理解するための、幅広く、ユニークな観点を獲得する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年 9月下旬～ 2025年 9月下旬

（在籍期間：2024年10月 1日～ 2025年 9月30日）

※授業開始に間に合うよう、2023年9月末日までに来日してください。

※修了式は2025年9月下旬を予定しています。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2023年は9月21日～22日）

9月： オリエンテーション

4月： 個別研究中間発表会

7月： 国際交流実地見学研修

8月： 個別研究修了発表会

9月： 修了式

9月下旬：帰国（2023年は9月30日）

この他にも、伝統文化体験や留学生会主催のパーティー（年4回）があります。



国際交流実地見学研修（岐阜県）にて。

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には修了証明書を授与します。

- (i) 必須科目（世界の教育60時間、日本語120時間、一般科目180時間以上）の単位修得
※ 取得した単位については、成績証明書の発行が可能。
- (ii) コミュニティ・ラーニング
（活動参加とレポート作成）
- (iii) 個別研究（発表とレポート作成）

●個別研究のテーマ例

「谷崎潤一郎『陰翳礼讃』における五感について」

「京都の人のお守りに対する信仰」

「第二言語教育に関する考察－韓国の中高等教育機関での日本語教育の在り方を中心に」

「日本のイノベーション促進に向けた人材面の取り組み」

「ブラジル日系人と日本人を対象とした「感情的な思い出」についてのアンケート調査とその分析」

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

シラバス

<https://kyoumu.kyokyo-u.ac.jp/jikanwari/index.html>

授業はすべて日本語で行われます。

1) 研修・コース科目の特徴

「教育」という切り口から日本を体験的に理解します。日本人学生と一緒に大学の授業を受ける以外にも、コミュニティ・ラーニング等で交流し、日本に対する理解を深めることができます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

- ・ 世界の教育 A 30時間
- ・ 世界の教育 B 30時間
- ・ 日本語（3つのレベルから選択）120時間

II) 選択科目

本学学部生向けに開講されている科目のうち「日本語学・日本語教育学」「文化・芸術」「開発教育・国際教育」の各分野から選択した授業の履修分野毎に60時間以上、合計180時間以上

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

・ コミュニティ・ラーニング

大学のサークルや市民ボランティア活動に参加しレポートを作成します。日本社会にゲストとしてではなく社会の一員として参加する体験を通じて、日本社会についての理解を深めます。

活動時間 30時間以上

・ 国際交流実地見学研修

日本人学生といっしょに歴史史跡や文化施設を見学します。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

- ・日本語科目以外は全て正規の大学の授業です。日本人学生といっしょに学びます。
- ・個別研究発表会や研修旅行には日本人学生も参加し質疑を行います。
- ・世界の教育A及びBは、本学の全ての学科の教員が交代で担当し、本学の全留学生と日本人学生も受講します。日本文化について、日本人学生との共修を通じて様々な角度から考える機会になります。

5) その他

授業科目以外に、地域との交流プログラムや京都国際交流協会の国際理解プログラムPICNIKに参加することができます。地域の学校を訪問して自分の国を紹介しします。また、京都市内の公立学校で、外国から来て日本語がわからない子どもたちを支援する、「学校通訳ボランティア事業」への登録の紹介も行っています。

⑪ 指導体制

研修生は教育学部に所属し、教育学部教員の指導を受けます。指導教員が推薦したチューターが学習と生活を支援します。

また、プログラム担当教員がプログラム履修全般の相談に対応します。プログラム教員：濱田 麻里・赤松 大輔・岡田 雄樹（国際交流委員会）



学生主催の文化体験。伏見稲荷でお月見。

■宿 舎

本学が管理する国際交流会館に入居することができます。

○家賃

- ・家賃（5,900円／月）＋共益費（5,900円／月）

入居時に保証金として20,000円が必要です。これは原則、帰国時に返金されます。

○宿舎設備・備品

各居室に冷暖房設備、給湯設備、バス・トイレ、ミニキッチン、家具類が備え付けられています。寝具は必要に応じてレンタル出来ます（約19,800円／年）

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

近くにスーパーマーケット、病院、公園等があります。大学まで徒歩で約15分、京都の中心まで約30分です。

■修了生へのフォローアップ

研修終了後も指導教員がメールで相談に応じています。また、修了生同士はSNSで交流を続けています。

これまでの修了生の多くは、研究留学生として再来日しています。日本の大学院で学位を修得した後、母国や日本の大学で教員として後輩を育てています。

企業や官公庁などに就職し、学んだ日本語を使って日本と母国の架け橋として活躍している人もいます。

■問合せ先

<担当部署>

京都教育大学学生課学生支援グループ

住所： 〒612-8522

京都府京都市伏見区深草藤森町1番地

TEL： +81-75-644-8159（直通）

FAX： +81-75-644-8169

Email： intel@kyokyo-u.ac.jp

<ウェブサイト>

京都教育大学：

<https://www.kyokyo-u.ac.jp>

日本語・日本文化研修留学生プログラム「体験しよう！京都」

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/student/ehp/to-this/ekyp/>



そったくん

マスコットキャラクター そったくん

そったくんは、禅の教え「啐啄同時」に関係があります。雛鳥が外に出ようと殻を吸う瞬間に母鳥が外からつつくことが大切なことから、教育全般のありかたについての教えになっています。そったくんは、教育者養成を目的とする京都教育大学を象徴化しています。



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

大阪大学 (大阪府)

一人一人への丁寧な指導・豊富な選択科目・目的別のコース

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪大学は、1931年に帝国大学として創設された伝統ある大学です。2007年10月、大阪外国語大学と統合し、新しい大阪大学となりました。学生の教育においては、高度の専門性ととも、幅広い学際的視野を身につけた人材を育成することに力を注いでいます。

現在は、総合大学として、11の学部があり、そのほか16研究科、6附置研究所、4附属図書館、2附属病院、30を超える教育研究施設などが置かれています。学生数は約23,300名、教職員数は約7,000名です。

大阪大学には、吹田、豊中、箕面（みのお）の三つのキャンパスがあります。日研生プログラムは箕面キャンパスにある日本語日本文化教育センター（CJLC）を中心として実施しています。

※ CJLCは2021年4月から箕面市船場東地区の新箕面キャンパスに移転しました。

② 国際交流の実績（2023年5月1日現在）

大学間交流協定数 152件、海外留学生数 1,101人

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 2,781人、日研生 55人
2022年：留学生数 2,590人、日研生 63人
2021年：留学生数 2,612人、日研生 57人



伏見稲荷大社見学

④ 地域の特色

箕面市は大阪府の北部、北摂と呼ばれる地域にあります。「明治の森箕面国定公園」など豊かな自然環境に恵まれています。箕面市の市民が留学生のホストファミリーになって交流する「ホームビジットプログラム」も行われています。



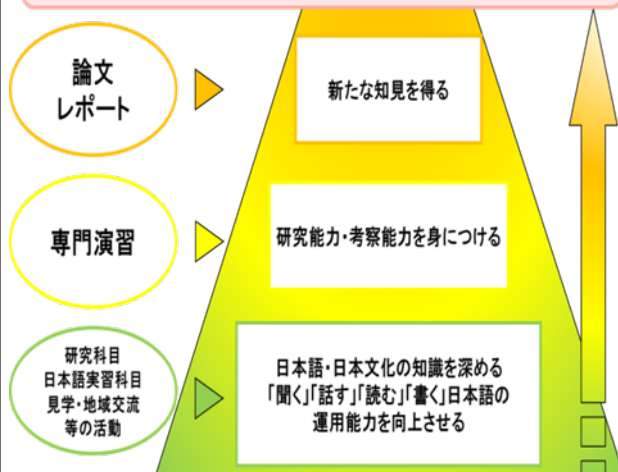
箕面の滝

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本語・日本文化の分野で活躍できる人になる



② 研修・コースの特色

★1対1に近い丁寧な指導

学生には必ずひとりの先生がアドバイザーになります。アドバイザーは勉強や生活に対してアドバイスをするほか、毎週、少人数制の授業をおこないます。その授業では、学生ひとりひとりに対して、テーマにあわせた指導をします。

★自由に選べるたくさんの授業

授業は週に100以上あり、すべて留学生のために準備されたものです。日本語能力を高める授業と、日本語・日本文化についての知識を身につける授業とがあります。学生はレベルや目的にあわせて自由に組み合わせる選ぶことができます。

★目的に合わせた二つのコース

日研生プログラムには二つのコースがあります。

○研究コース：日本語・日本文化について研究することを希望する学生のためのコースです。それぞれの研究分野に関する知識や方法を学ぶ中で、日本語・日本文化を研究するために必要な能力を身につけます。コース修了時に、研究成果について、論文を完成させます。

○研修コース：将来社会で幅広く活躍することを希望する学生のためのコースです。自らの活動報告やグループ・ディスカッションを行った後、学内外研修に参加したりする中で、日本語・日本文化を考察するために必要な能力を身につけます。コース修了時に、研修成果について、レポートを完成させます。

③ 受入定員

60名（大使館推薦40名、大学推薦20名） -013-

④ 受講希望者の資格、条件等

次の条件を満たす留学生が日研生プログラムの受講を希望することができます。

1. 渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部在学中、日本語・日本文化に関する分野を専攻していること。
2. 日本語学習歴が2年以上あること。
3. 基本的な日本事情の知識を有すること。

⑤ 達成目標

1. 日本語実習科目の授業を受けて、日本語の運用能力を向上させること。
 2. 研究科目の授業を受けて、日本語・日本文化についての知識を深めること。
 3. 専門演習科目の指導を受けて、研究・考察能力を身につけること。
 4. 研究・研修の成果について、日本語の論文・レポートを作成し、口頭発表できるようになること。
- ※ 大阪大学の日研生の多くは修了時に日本語能力試験N1合格レベル以上の日本語運用能力に到達しています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年9月下旬 ～ 2025年8月中旬
(2024年10月1日 ～ 2025年8月31日)

※ 8月末にZoomでオリエンテーションがあります。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月



紙漉き体験



歌舞伎鑑賞

⑧ 研修・年間スケジュール

(2022-23年度実施例)

- | | | |
|-----|---|--|
| 8月 | オリエンテーション（オンライン） | |
| 9月 | 渡日（9月下旬） | |
| 10月 | チューター開始 |  |
| 11月 | 大学祭、研修コース就職セミナー
見学旅行（1泊2日・永平寺ほか） | |
| 12月 | 研修コース空堀商店街見学 | |
| 1月 | オリエンテーション（オンライン）
研修コース観光セミナー | |
| 2月 | 秋～冬学期試験期間
研究/研修コース中間発表会
奈良教育大学との合同研修
（一日・清水焼絵付け体験ほか） |  |
| 3月 | 大相撲観戦 | |
| 4月 | 研修コース見学（読売新聞大阪本社） | |
| 5月 | いちよう祭（大学祭）、チューター開始
研修コース通訳・翻訳セミナー
芸能鑑賞会（歌舞伎） |  |
| 6月 | 修了生講演会&ホームカミングデイ
芸能鑑賞会（文楽）
見学旅行（一泊二日・伊勢神宮ほか） | |
| 7月 | 春～夏学期試験期間、修了論文・レポート提出
研究コース論文口頭試問 | |
| 8月 | 研究/研修コース最終発表会、修了式
帰国（8月中旬頃） |  |

⑨ コースの修了要件

1. 選択したコースごとに定められた数の必修科目と選択科目を修得すること。
研究コース：必修科目2科目、選択科目18科目以上
上研修コース：必修科目2科目、選択科目21科目以上
 2. 中間発表会と最終発表会に参加し、発表を行うこと。
 3. コース修了時に、研究コースは論文を日本語で作成して提出し、口頭試問に合格すること。
研修コースはレポートを日本語で作成して提出すること。
- 上記の三つの要件を満たした学生について、GJLC教授会が修了判定を行い、修了した学生には修了証書および成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

GJLCの1年間は、秋～冬学期（10～3月）と春～夏学期（4～8月）の二学期に分けられ、どちらの学期も15週あります。授業はすべて日本語で行われます。ひとつの授業（1コマ）は90分間です。学期のはじめに日本語のプレースメントテストがあり、初中級・中級・中上級・上級のレベルに分けられます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

日研生プログラムの必須科目は3種類、必修科目と日本語実習科目、研究科目です。

★必修科目（JDR）

この授業は、ただひとつの必修の授業です。各学期1コマ（30時間）、学生ひとりひとりの研修テーマにあわせて、論文やレポートを作成するための指導をきめ細かくおこないます。これは日研生専用の授業で、大阪大学の日研生プログラムの最大の特色になっています。

修了論文の一例は以下のとおりです。

- ・ 翻訳における役割語
- ・ アニメ・漫画における関西弁
- ・ 日本語と韓国語の温度表現の比較
- ・ 日本語教育におけるアクセント指導について
- ・ 上方落語について
- ・ 日本の大学における怪談話 など

II) 選択科目・内容

★日本語実習科目（1週あたり約60コマの授業を提供）
日本語能力を高めるための授業です。初中級・中級・中上級・上級の4つのレベルにあわせて、少人数で行われます。次の6種類の科目があります。

読解、聴解、文章表現、口頭表現、
文法・語彙：文法や文型を中心に、すべての日本語能力の基礎になる語彙力を高めます。
漢字・語彙：漢字や漢語を中心に、すべての日本語能力の基礎になる語彙力を高めます。

★研究科目（1週あたり約40コマの授業を提供）

日本を研究対象とした諸研究を行うのに必要な知識や方法論を身につけるための科目です。中上級・上級の2つのレベルがあります。

研究科目の主な開講科目は次の通りです。

日本語学研究：音声学・音韻論/形態論/統語論/語用論/意味論/類型論/方言

日本語教育学研究：教授法/会話分析/

ICT教育/異文化間コミュニケーション

日本思想文化研究：伝統文化/宗教文化/民俗学

日本歴史文化研究：日本史/茶道/日本服装史/日本美術

日本文献文化研究：日本文学（古典文学/近現代文学）/伝統芸能

日本近現代文化研究：社会学/女性学/比較文化/マンガ・アニメ学/メディア文化/映画論

日本社会文化研究：経済学/国際関係論

など

「日本語実習科目」と「研究科目」は、各学期とも週に合計100コマ以上あります。その中から、秋～冬学期・春～夏学期あわせて18コマ（540時間）以上を、レベルや目的にあわせて自由に組み合わせて選びます。留学生のために準備された授業がこれだけ多く提供されているのは、大阪大学の日研生プログラムの特色の一つです。

備考：単位認定、単位互換

大阪大学の日研生プログラムでは、単位を取得することができません。

単位認定・単位互換については、成績をもとに学生の出身大学に判断を委ねています。



最終発表会

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「必修科目」では、実地見学や研修があります。

（例：新聞社見学・就職セミナー・観光セミナー・通訳・翻訳セミナーなど）

「研究科目」の授業では、授業の内容に合わせて必要な実地見学を行います。

（例：美術館見学・能楽鑑賞など）

また、日本文化についての理解を深め、日本語能力を高めるために、学内外のさまざまな活動を計画しています。（例：見学旅行・歌舞伎鑑賞・文楽鑑賞など）

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本人学生と共に学ぶ授業として、日本文献文化研究（古典文学）が秋～冬学期と春～夏学期の両方で開講されています。また、日本語能力に応じて、春～夏学期に限り、他学部で開講されているいくつかの日本関係の授業も提供しています。

⑪ 指導体制

1. 日研生プログラム担当教員：

佐野方郁、柴田芳成、立川真紀絵、松村薫子
水野亜紀子、山川太

2. 指導体制・学生の所属等：

学生はCJLCに所属します。学生の指導は、上記教員を含むCJLC教員が担当します。

※必要に応じて、日本人チューターが学習を手助けします。

■宿 舎

日研生が入居する寮として、キャンパス内に学生寮（寮費：月額5～6万円程度[注]）があります。寮に入居できない場合は、民間アパート（家賃：月額6万円程度）を紹介しています。

[注] 2023年度現在の金額です。

■修了生へのフォローアップ

CJLCでは、「日研生修了生追跡調査プロジェクト」を組織して、EメールやFacebookを通じて、修了生の近況の把握、情報の蓄積に努めています。修了生の主な進路は、大学院生、大学教員、大使館職員、日本企業勤務などです。また、修了生の必要に応じて、成績証明書・修了証明書を発行しています。

そのほか、毎年「修了生講演会」を開催し、本学で大学院生として学んでいる修了生と日本の企業や地方自治体などで働いている修了生を招いて、在校生に修了後の進路についての情報を提供しています。また、2023年から同日に「ホームカミングデー」を開催し、日本で進学・就職している修了生が年1回集まり交流する日も設けています。



修了生講演会&ホームカミングデー

■問合せ先

<担当部署>

大阪大学 人文学研究科 質面事務部

日本語日本文化教育センター係



住所：

〒562-8678

大阪府箕面市船場東3-5-10

TEL：

+81-72-730-5075（直通）

FAX：

+81-72-730-5074

Email：

cjlc@office.osaka-u.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪大学のウェブサイト

<https://www.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学日本語日本文化教育センター（CJLC）のウェブサイト

<https://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/>

<https://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学の日研生プログラムのホームページ

<https://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/program/j/>



大阪教育大学 (大阪府)

個性豊かな大阪の文化を感じながら、日本語を学んでみませんか

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪教育大学は約150年の歴史と伝統を有する、日本で有数の教育大学です。教員養成課程と教育協働学科があり、すぐれた指導力を持つ教員や、社会の発展に貢献し得る人材の育成を行っています。

柏原キャンパスと天王寺キャンパスがあり、大阪府内に11の附属学校園があります。大学院（教育学研究科・修士課程）は3コースからなります。

メインキャンパスである柏原キャンパスは、大阪府東部・柏原市内の金剛生駒紀泉国定公園の中にあります。柏原市は緑豊かな山並みと美しい自然環境、そして古い歴史を持つ町です。柏原キャンパスから大阪市の中心部までは、電車で約30分です。



② 国際交流の実績

2023年10月1日現在、本学には245名の留学生在学しています。また、現在中国、韓国、台湾、ベトナム、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、フランス、スウェーデン、フィンランド、スイス、キルギス、クロアチア、タイの38大学と学生交流協定を結んでおり、毎年、交換留学生の受け入れ・派遣を活発に行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数245人、日研生15人
2022年：留学生数239人、日研生11人
2021年：留学生数215人、日研生7人

④ 地域の特徴

大阪の文化力

西日本は独特の文化を発展させてきましたが、大阪はその中心都市とすることができます。大阪は日本の伝統文化を守り育て、現在も日本文化に強力な影響を与え続けています。大阪教育大学で勉強しながら大阪の文化力に触れてみませんか？

大阪弁

大阪で話される方言は大阪弁と呼ばれ、力強くしかしとても温かく心に響きます。また、マンガやテレビドラマの中で、エネルギーでユーモラスな大阪人の特徴として使用されることも少なくありません。そのため、大阪弁は日本人だけでなく留学生にもとても人気があります。大阪教育大学の留学生はもちろん標準的な日本語を勉強しますが、キャンパスの内外で大阪弁を聞く機会がたくさんありますので、大阪弁の特徴も学ぶことができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本語

日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めることができます。

(2) 日本文化

日本の文化や社会、大阪や関西に対する理解を深めるための科目が充実しています。

(3) 個人研究

学生の希望や専門分野に応じて指導教員の指導のもと、修了レポートを書きます。

(4) 文化体験・文化交流

関西、西日本地区での文化研修が1年に2回実施されます。本学の学生との交流、地域の学校やボランティア団体との交流も活発に行われ、様々な活動に参加することができます。



③ 受入定員

20名（大使館推薦15名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2相当以上の日本語力があることが望ましい。
- ・以下の本学のルールに同意できる者
研修期間中の車やバイクの運転は原則禁止
研修期間中のアルバイトは原則禁止
キャンパスの敷地内は全面禁煙

⑤ 達成目標

- ・日本語で修了レポート作成・発表をし、学術的な内容を的確に表現できるようになること。
- ・関西を中心に日本の文化を深く理解すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
（在籍期間：2024年10月1日 ～ 2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2023年は9月25日渡日）
オリエンテーション

10月：後期授業開始

11月：ホームビジット

秋季日本文化研修

12月：門松作り

2月上旬：後期授業終了

2月：日本文化を楽しむ会

4月：前期授業開始

修了レポートテーマ決定

6月：ホームビジット

春季日本文化研修

7月：修了レポート提出

七夕飾り作り

8月：前期授業終了

修了レポート発表会

修了式

8月下旬：帰国



⑨ コースの修了要件

- ・各学期、9科目以上の授業の履修が必須です。
- ・「日本語科目」「日本文化に関する科目」のほか、日本人学生のための授業の中からグローバルセンターの日研生担当教員の指導に従い受講科目を決めます。
- ・春学期には「日本文化研究」が必修科目で、修了レポートを作成し、発表します。

以上の要件を満たした場合、修了証が授与されます。
プログラム修了後に成績証明書も発行されます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- ・日本語レベルに応じた日本語科目や日本文化に関する科目を受講することができます。
- ・日本語力が十分であると認められる場合、日本人学生のための授業も受講できます。
- ・1科目は90分15回の授業からなります。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

「日本文化研究」が必修科目です。修了レポートを作成しその内容を発表することによって2単位取得できます。

II) 日本語科目

科目名	単位数	
	秋	春
日本語Ⅰa, b	1	1
日本語Ⅱa, b	1	1
日本語中上級総合Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本語中上級読解Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本語中上級漢字Ⅰ, Ⅱ	2	2
時事日本語Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本語中級会話Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本語中級読解Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本語中級漢字Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本語中級作文Ⅰ, Ⅱ	2	2

Ⅲ) 日本文化に関する科目

科目名	単位数	
	秋	春
日本文化研究	—	2
関西発見プロジェクトⅠ, Ⅱ	2	2
文化交流実践研究Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本の伝統文化Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本の社会と文化Ⅰ, Ⅱ	2	2
日本の地域社会	2	—
日本の現代社会	—	2
日本語実践プロジェクト	—	2
経済の目で見える地域と暮らし	—	2
日本近代文学読解入門	2	—
国際理解	2	—
日本事情	—	2
多言語実践プロジェクト	2	—

3) 見学や地域交流等の参加型科目及びその具体的な内容

・「関西発見プロジェクトⅠ, Ⅱ」は講義と学外見学、フィールドワークを通して関西の地域社会や文化の特徴を学びます。

・「文化交流実践研究Ⅰ, Ⅱ」は地域内の小学校で文化紹介・交流活動を行い、日本の社会や文化、教育について理解を深めます。

・「日本の伝統文化Ⅰ, Ⅱ」は学内の専門分野の教員が担当し、剣道、柔道、陶芸、書道などを学びます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・「国際理解」「多言語実践プロジェクト」「日本事情」など、ディスカッションやグループワークを通じて日本人学生とともに学ぶ授業があります。

・本学には以下のような専攻・コースがあり、指導教員と相談した上で、専門にあった授業を受けることができます。

➢日本文学・日本語学・日本語教育を学びたい方
グローバル教育専攻 多文化リテラシーコース

➢日本の教育について学びたい方
教員養成課程

➢音楽・美術が好きな方

芸術表現専攻 音楽表現コース、美術表現コース -017-

⑪ 指導体制

● グローバルセンター

グローバルセンターの日研生担当教員が主に日本語・日本文化研修留学生プログラムのコーディネートをします。また、授業や日本での生活についての助言をします。

● 指導教員

指導教員が授業の履修や修了レポートについて指導します。指導教員は本学の教員養成課程、教育協働学科の教員から、各学生の興味関心を考慮して選定されます。

● チューター制度

チューター学生が留学生を一对一で支援します。学習や日常生活での助言を行い、留学中の生活をサポートします。



■ 宿 舎

柏原キャンパス内と近隣地区の大阪府八尾市に留学生のための宿舎があります。日本語・日本文化研修留学生には、大阪府八尾市の山本国際学生宿舎3号棟の部屋が優先的に割り当てられます。

<山本国際学生宿舎3号棟>

* 3DKの部屋を3人でルームシェアし、1人ずつ個室に住みます。

○設備・備品:

(居室) 机・椅子・エアコン・本棚・寝具(レンタル)
(共用) キッチン・バス・トイレ・冷蔵庫・電子レンジ・テレビ・洗濯機・洗面台

○宿舎費(毎月) [2023年度現在]

A: 28,500円 / B: 27,400円 / C: 26,200円

* インターネット代・寝具レンタル代・光熱水費・共益費等すべて含みます。

* 金額は部屋タイプ(A, B, C)により異なります。

○デポジット: 1か月分の寮費(入居時に必要)

○退去時清掃代: 30,000円(入居時に必要)

○特色: レジデント・アシスタント(寮に住み、日々の生活を支援する学生)と管理人が、皆さんのサポートにあたります。

* レジデント・アシスタントとは一部の住居で混住となります。

○収容定員: 21名(7戸室)

○所在地: 〒581-0013

大阪府八尾市山本町南7-9 大阪教育大学山本宿舎
近鉄大阪線「高安」駅徒歩約5分



■ 修了生へのフォローアップ

● 修了後の進路

本学で日本語・日本文化研修生として学んだ留学生は、帰国して母国の大学を卒業した後、国費留学生として再び日本で留学したり、日本語力を活用して企業等に就職したりしています。

● 修了後の情報提供

本学グローバルセンターではホームページ・Facebook等を通して修了生に情報を発信し、コミュニケーションを行っています。



■ 問合せ先

<担当部署>

大阪教育大学学術部学術連携課国際室留学生係

住所: 〒582-8582

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL: +81-(0) 72-978-3300 (直通)

FAX: +81-(0) 72-978-3554

Email: ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪教育大学グローバルセンター:

<https://ger.osaka-kyoiku.ac.jp/>

大阪教育大学:

<https://osaka-kyoiku.ac.jp>



神戸大学 (兵庫県)

日本の国際化の原点、神戸で学ぶ日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 歴史と特色

神戸大学は、1902(明治35)年に高等教育機関として設置された神戸高等商業学校を創立の起点としており、120年を超える歴史をもつ国立大学法人です。

「人文・人間科学系」「社会科学系」「自然科学系」、「生命・医学系」の4大学術系列の下に10の学部、15の大学院、1研究所と多数のセンターを持つ日本有数の総合大学であり、先進的で充実した教育・研究環境を備えています。

「真摯・自由・協同」の理念の下、人類社会の貢献に資する普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを目指しており、国際都市として開放性に富む神戸の文化や環境を活かした異文化との交流も重視しています。

2) 教職員・学生数等(2023年5月現在)

- ・教員数：1,579名
- ・学生数：学部学生 11,411名
大学院学生 4,460名
計 15,871名
〈内留学生数 1,291名(86ヵ国・地域)〉

② 国際交流の実績(2023年5月現在)

海外の基幹大学との学術交流や留学生の交換を積極的に進めており、世界65ヵ国・地域の著名な大学や研究所など、374機関と学術交流協定を結んでいます。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年：留学生数 1,291人、日研生 3人
2022年：留学生数 1,229人、日研生 4人
2021年：留学生数 1,179人、日研生 7人



④ 地域の特徴

神戸大学の所在地である神戸市は、1868年に兵庫港として開港以来、国際貿易の拠点として栄え、海外から多くの人や文化を受入れ、海と山に囲まれた国際都市として発展してきました。

また、神戸市は兵庫県の県庁所在地として、地方の行政、経済、文化、教育の中心的役割を担い、国内でも有数の大都市です。

■研修・コースの概要

① 研修・コース目的

(a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

高度な日本語を学ぶ中で、研修旅行や地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加などを

体験し、様々なアプローチで日本を学ぶことが可能です。また、日本人学生と共に行う交流事業等において相互の国際感覚を養うことができます。

③ 受入定員

10名(大使館推薦5名、大学推薦5名)

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・身分及び専攻
外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・日本文化を主専攻として履修している学部学生。(ただし、1年次生を除く)
- ・日本語能力及び学業成績
すでに基礎的な日本語の学習を修了し、本学において日本語で行われる日本語・日本文化等に関する授業を受講できる日本語能力(日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験2級」(新基準「N2」)以上)を有する者で、在籍する大学における学業成績が上位の者。
- ・その他
大学推薦による受入れは、本学と学術交流協定締結大学からの受入れを優先します。

⑤ 達成目標

日本語の教育研究者、日本語通訳者・翻訳者あるいは日本学に関する教育研究者・専門家を目指す留学生に対して、高度な日本語能力と日本文化についての深い知識と理解が得られる教育環境を提供し、習得することを目的としています。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2024年9月下旬～2025年8月下旬
(在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬： 渡日

10月： オリエンテーション

日本語・日本文化研修開始

11月： 日本文化体験旅行

12月： 国際学生交流シンポジウム

・日本人学生との交流シンポジウム

2月： 日本文化体験旅行（自由参加）

日本の冬を体験するイベント

6月： 地域研修旅行

日本の文化に触れる研修旅行

7月： 課題研究の報告書作成

8月： 日本語・日本文化研修修了

日研生プログラム修了式・送別会

8月下旬： 帰国

⑨ コースの修了要件

秋学期・春学期を通じて、必修科目(120時間)と選択科目(300時間以上)の合わせて420時間以上の修得及び研究課題の発表を修了要件としており、この要件を満たした者に修了証書を授与します。

修了判定に当たっては、グローバル教育センター教員による判定会議で総合的に判定されます。

なお、単位の付与はできませんが、各学期末に成績証明書を交付します。また、留学生の在籍する大学から照会があった場合には、授業内容や成績に関する資料の提供に応じます。



日本語・日本文化研修留学生修了式

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修科目は、日本語・日本文化に関する研究を行い、修了レポート作成につなげるための「課題研究」と、日本語能力を高めるための日本語科目、そして日本事情・日本文化及びその関連領域について学べる専門科目や、日本人学生との共修科目から成ります。このうち、「課題研究」と、日本語科目の作文科目（中上級または上級レベル）を必修科目とし、他の科目は研修生の日本語能力や関心に応じて自由に選択できる、選択科目です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（120時間）

・課題研究（後期30時間、前期30時間）

学期ごとに所定のテーマについて学びながら、担当教員の指導の下に自らの関心に従って研究を行い、その成果を発表し、修了レポートを作成します。各学期のテーマは下記を予定しています。

秋学期のテーマ：ジェンダー問題

日本の社会・文化に関する理解を深めるために、自国と日本のジェンダー問題について資料を収集し、日研生同士のディスカッションを通じて両国の比較をした結果を国際人間科学部の授業「男女共同参画とジェンダー」において、日本人の学部学生に発表してから、意見交換を行います。

春学期のテーマ：地域研究

関心のあるテーマを設定し、自律的に資料の収集・分析・考察を行います。毎週、日研生同士により発表し、意見交換を行い、中間発表・最終発表を経て、研究成果を修了レポートとしてまとめます。

・日本語作文科目（後期30時間、前期30時間）

課題研究の修了レポートを書き上げるために、文章作成技術を学ぶ科目を必修としており、

- ・「日本語Ⅰ A/B」
- ・「日本語Ⅴ A/B」
- ・「日本語作文中級A/B」
- ・「日本語作文中上級A/B」
- ・「ビジネス日本語Ⅰ A/B」
- ・「ビジネス日本語Ⅱ A/B」
- ・「異文化コミュニケーション演習A/B」

の中から履修することが必要です。

II) 選択科目（300時間以上）

研修の大きな特徴は、グローバル教育センターが提供する日本語科目も、文学部・国際人間科学部が提供する日本事情・日本文化に関する科目も履修できることです。

・日本語科目

基本的にレベルごとに技能・目的別に開講されています。研修生のレベルに応じて、中級から上級レベルの科目を自由に履修できます。

日本語運用能力を補強することを目的として、文法、会話表現、読解、文章表現、漢字語彙と技能別に学習します。上級では学術的なトピックを中心とした日本語学習を通して、大学において教育・研究を円滑に進めることのできる日本語運用能力を習得できます。

過去に日研生が履修した日本語科目（例）

- 集中日本語（中級・中上級）
- 聴解・会話・読解・作文・文法
- 日本語特別演習（N2・N1対策）

・日本事情・日本文化関連専門科目

主として本学の文学部・国際人間科学部で開講されている、日本事情・日本文化に関連する専門科目の中から、研修生各自の問題意識・関心に応じて履修できます。これらの科目の履修により、日本文化に関する知識を深めるとともに、日本語・日本文化の修得に必要な方法論・技能等を習得し、日本語・日本文化研究のための基礎を養うことができます。

文学部では、人間がつくり上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。国際人間科学部では、様々な専門分野からグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションを取り、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。

過去に日研生が履修した専門科目（例）

文学部
日本社会文化論演習・国文学特殊講義・社会学特殊講義

国際人間科学部
日本語コミュニケーション・日本社会文化論・文化翻訳論・コミュニケーション構造論

※他学部の授業も聴講できる可能性があります。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

科目としての見学、地域交流等はありませんが、任意参加で各種イベント、シンポジウム、研修があるので、積極的に参加することをお勧めします。

4) 日本人学生との共修等の機会



グローバルリーダーシップ育成基礎演習科目

日本人学生との共修科目である「グローバルリーダーシップ育成基礎演習科目」もあります。この科目では、12月に行われる日本語・英語のバイリンガルによる神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画・運営に携わることを通じて、グローバル人材としての素養を身に付けることができます。

本授業の到達目標：

・複眼的に思考する能力：日本語・英語、その他の言語の文献・資料、映像等を検証し、新型コロナウイルス感染症がもたらしている様々な社会的課題を多様な視点から捉え直します。

・多様性と地球的課題を理解する能力：シンポジウムのテーマについて多様な視点から理解を深め、個々の専門分野の特性を活かしながらどのようにリーダーシップを発揮していくことが可能なのか考究します。

・協働して実践する能力：学部や専門、出身国（地域）が異なる者同士が協働で研究課題に取り組むことを通じて、プロジェクト遂行のために良好な人間関係を構築し、「協働する姿勢・能力」を身に付けます。

⑪ 指導体制

・日研生担当教員のリチャード・ハリソン教授が当プログラム全体を統括します。

a. 学業面

コース期間を通して「課題研究」の指導を行います。

b. 生活面

コース期間を通して、上記の日研生担当教員及びグローバル教育センター（相談指導ユニット）の専任教員2名が必要に応じて相談業務に当たります。

*相談指導ユニット専任教員

- ・河合 成雄 教授
- ・黒田 千晴 准教授

■宿 舎

神戸大学では、留学生数の増加に伴い、希望者全員が大学の留学生用宿舎に入居できるとは限りません。なお、大学では夫婦・家族室については用意できません。

- ・入居期間は11ヶ月間です。
- ・寄宿料：月額 4,700円～21,000円（2023年度）
宿舎によっては、共益費等が必要な場合があります。
- ・宿舎により異なりますが、机、イス、ベッド、冷蔵庫、洗濯機等が備わっています。
- ・通学時間は、電車等を利用して30～50分です。
- ・その他（光熱水費等は各自で負担となります。）

■修了生へのフォローアップ

修了生には、本学の海外同窓会ネットワークへの加入（登録）を呼びかけ、本学の各種情報をお知らせすると共に進学や就職に関する相談などのキャリアサポートも行っています。さらに、同窓生間の情報交換に役立てています。

日研生プログラムを修了した留学生が、在学する大学を卒業後に日本の大学院への進学を考える機会を提供します。

本学を修了した123名のうち、半数以上が日本企業や日本関連の仕事に就き、10名以上が、日本の大学院に進学しています。

Facebook: Kobe University International Alumni Association

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalAlumni>

■問合せ先

神戸大学学務部国際交流課留学生支援グループ

住 所：〒 657-8501
兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

TEL： +81-78-803-5263（直通）
FAX： +81-78-803-5289
E-mail: stdnt-ryulife@office.kobe-u.ac.jp

実施担当：
グローバル教育センター（日本語等教育ユニット）
E-mail: harrison@kobe-u.ac.jp

神戸大学HP：
<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センターHP：
<http://www.gec.iphe.kobe-u.ac.jp/>
Facebook：

Kobe University Global Education Center

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalStudentCenter?ref=hl%2F>



奈良教育大学 (奈良県)

古都・奈良で学ぶ 日本語・日本文化実地検証プログラム

ーやま とー

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

本学は1888年に奈良県立尋常師範学校として創設されて以来、2018年で130年の歴史を有している。学部、教職大学院、大学院教育学研究科修士課程を設置し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ることを目的としている。

2) 教員・学生数等：

教員数 92人 学生数 1,275人

② 国際交流の実績

現在7か国12大学と国際交流協定を結び、小規模大学ながら活発に国際交流を行っている。

特に学生交流では、教員養成大学の特性（さまざまな専門領域の教育が提供されている）、古都奈良の特色を生かした留学生プログラムが高く評価されており、毎年、学部・大学院の正規留学生だけでなく、協定大学をはじめとする多様な国・地域からの留学生を多く受け入れている。

とりわけ日本語・日本文化研修留学生（以下、日研究生）は、1987年に初めて1名を受け入れて以来、現在までに約40か国から約200名を受け入れてきた、大きな実績がある。（④地域の特色参照）



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研究生）の受入れ実績

2023年：留学生数44人、日研究生5人

2022年：留学生数53人、日研究生6人

2021年：留学生数33人、日研究生3人

④ 地域の特色

本学がある奈良市は、8世紀には都（平城京）がおかれ国際交流都市として日本の国家や文化の礎がつくられたところである。そのため、現在でも町の中に伝統が色濃く残っており、過去と現在が交差するユニークな都市である。

2010年には平城遷都1300年を迎え、益々国際交流に力を入れている。留学生に対しては地域からの期待も大きく、たくさんのサポートを受けることができる。

また大阪、京都にそれぞれ電車で1時間以内で行くこともできる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

以下の（a）（b）両方を対象とする。

（a）主に日本事情・日本文化に関する研修

（b）主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

本学はユネスコ世界遺産「古都奈良の文化財」に登録された社寺まで歩いて行けるだけでなく、本学内でも8世紀の寺の遺構が発掘されるなど、伝統文化を日常の中で体験できる、他にはない大学です。このような立地条件で提供するプログラム「やまと」の特色は以下のとおりです。

1) 日本文化の原点とも言える地にあるという利点を生かして、伝統文化が現代文化とどのように共存しているか、またその背景にある日本人の価値観とは何かが理解できるように、講義だけでなく、実地研修の中で指導する。

2) 日本語、および日本文化関連の授業、実地検証などに

おいて日研究生独自の年間カリキュラムを提供する。

3) 教育大学であることの特色を生かし、附属学校園の授業に日本人学生とともに参加したり、子ども達と交流することで、日本の教育の実状も体験できる。

4) 留学期間をとおして（特に後半の修了レポート作成において）、日研究生各自の興味の対象に沿う指導を行う。

③ 受入定員

21名（大使館推薦15名、大学推薦6名）

④ 受講希望者の資格、条件等

規則を守り、真摯に日本語・日本文化を学習する意欲のある者。

日本語能力試験（JLPT）N2以上の日本語能力が望ましい。

また、少なくとも2年以上の日本語学習歴、専攻は日本語学、日本文学、日本語教育、日本学、比較文化学であることが望ましい。

⑤ 達成目標

1) 日本語・日本文化をテーマとした研究・研修の成果に関する日本語の論文・レポートを作成できるようになること。

2) 大学での研究や社会生活に必要な日本語運用力を身につけること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬

（修了認定は9月中旬～下旬となるため、修了証書は後日郵送する。）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール () 内は2022年度の実施例
※やむを得ない状況があった場合変更の可能性があります。

9月中旬～下旬：渡日、オリエンテーション
10月：入学式、秋学期授業開始
11月：学習旅行（高野山）、大学祭
1月：文化体験1（歌舞伎観劇）
3月：文化体験2（大相撲観戦）
4月：春学期授業開始
学習旅行（近江八幡）
7月：文化体験3（文楽観劇）
8月：終了発表会、終了式 8月下旬：帰国

⑩ 研修・コース科目の概要・特色 ※やむを得ない事情が生じた場合は変更の可能性があります。

1) 研修・コースの特徴

日本語教育に関して、それぞれの日本語能力レベルに応じて、日本語教育の専門家による日本語科目が受けられる（学部留学生向けの科目も組み合わせて受講する）。日本語・日本文化関連の授業では、言語・文化に関する深い知識について、その領域の専門家による講義と同時に、プロジェクトワークや学校交流等を取り入れた実践的な日本語使用および文化理解の機会が提供される。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目（★），II) 選択科目：以下のとおり。1コマ90分

	授業科目	コマ数		
		秋学期	春学期	計
日本語	(★)日本語Ⅰ（上級論文執筆技術）	15	15	30
	(★)日本語Ⅱ（上級読解）	15	15	30
	(★)日本語コミュニケーション（体験型日本語学習）	15		15
	(★)日本語演習Ⅱ（中上級アカデミック読解）	15		15
	(★)日本語演習Ⅱ（中上級小論文執筆技術）	15		15
	(★)日本語演習Ⅰ（中上級文学読解）		15	15
	(★)日本語演習Ⅰ（中上級小論文執筆）		15	15
	(★★)日本語文献講読（言語）		15	15
	・(★)日本語能力に応じて指導教員が指定した科目を履修 ・(★★)研修コースによってどちらかを選択			

上記の表に記載された留学生用授業が開講されていない時間は、日本語能力や興味に応じてその他の日本人向け授業を履修し、単位を取得することができる（ただし指導教員および担当教員の許可が必要）

日本人学生向け授業例

日本文学史Ⅰ 日本文学概説Ⅰ 日本語学概説Ⅰ 日本語概説Ⅱ
コーパス日本語学入門 古典文学再入門『竹取物語』を読み直す
アジアの中の日本美術史 民族音楽学 など

⑨ コースの修了要件

- 以下の要件を満たした場合、国際交流推進室がコース修了を認定し、修了証書を発行する。
- ・秋学期、春学期で指定された科目を含む合計14科目以上を履修し合格すること
 - ・コースで定められた実地研修に参加すること
 - ・本コースの成果として、日本や日本文化に関するレポートを日本語で作成すること
 - ・成績証明書の発行（各学期の終了後に発行します）

※単位の認定及び単位互換

本コースで履修し合格した授業については単位が認定される。
大学推薦の学生は、取得した単位は大学間協定に基づいて互換することが可能である。

日本文化	★※日本文化史	15		15
	★※比較文化論		15	15
	★※現代日本論		15	15
	※比較言語文化論Ⅱ	15		15
	日本人の宗教観	15		15
	(★★)日本語文献講読（文化）		15	15
	※比較言語文化論Ⅰ		15	15
	※国際文化論		15	15
	※日本語教育論	15		15
その他	※日本語教授法特講		15	15
	★修了レポート指導	—	—	—
	日本文化科目、その他の科目のうち、 ★は必修科目、※は日本人学生の受講も可			

⑩ 研修・コース科目の概要・特色（続き）

3) 見学、地域交流等の参加型科目

11月 地域の小中学校での交流や授業体験
(日本人学生も参加)

11月、4月 学習旅行

1月、3月、7月 文化体験

・その他、地域の研究所や博物館を活用した授業もあり。

・学内サークルや部活動に参加可能。

・大学主催の国際交流イベント(月1回程度)のほか、地域団体主催の文化体験プログラムにも参加可能。



附属小学校での交流授業



高野山学習旅行（2022年の場合）



大相撲観戦（2022年の場合）

4) 日本人学生との共修の機会

以下の留学生向け科目（(2)の表※を付した科目）は日本人学生も受講可である。

-日本文化史 -比較文化論 -現代日本論
-比較言語文化論Ⅰ／Ⅱ -日本語教育論
-日本語教授法特講 -国際文化論

また以下の科目でも日本人学生との共修機会を提供している。

-日本人向け科目（授業担当教員の許可の下受講可）
-日本語科目におけるクラス活動（地域の交流の準備時間等）

⑪ 指導体制

学業面では以下の教員が個別指導を行う。

() 内は専門分野

* 和泉元 千春(日本語教育学) izumimotoc@cc.nara-edu.ac.jp

* ヤナセ・ペーテル(日本文化・民俗学) yanase.peter.ps@cc.nara-edu.ac.jp



交流イベント「田植え」



交流イベント「なっきょん's café」

■宿 舎

日研生は、特に事情がない限り、大学の学生宿舎に入居する。

寮費 約18,500円/月 (但し、居室光熱費別途)
Wi-fi設備あり。

◇その他

来日後に、全員、国民健康保険(月額約2,500円)、外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険(略称:インバウンド付帯学総)(月額約3,000円)に加入する必要があります。

また、胸部レントゲン検査を受けてもらいます。

■修了生へのフォローアップ

①指導体制

帰国後の学生が研究留学生として再渡日を希望する場合には、文化人類学・日本文化及び日本語教育学を専門とする留学生担当教員がe-mail等で助言している。大学主催の留学生対象の就職セミナーもあり。

②キャリアパス(一例)

日本やその他の国の日本語教育機関において教職、研究職に従事。日本語能力、日本理解を必要とする日本国内外の企業への就職。

■問合せ先

<担当部署>

奈良教育大学学生支援課国際交流・留学生係

住所: 〒630-8528

奈良県奈良市高畑町

TEL: +81-742-27-9148(直通)

FAX: +81-742-27-9146

Email: ryugaku@nara-edu.ac.jp

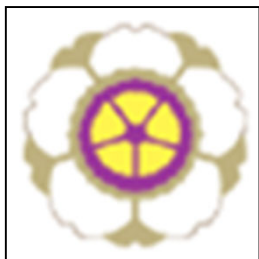
<ウェブサイト>

国際戦略センター:

<https://nara-isc.net>

奈良教育大学:

<https://www.nara-edu.ac.jp/>



奈良女子大学(奈良県)

日本の原点「まほろば」の地で日本のことばと文化を学ぶ



■大学紹介

① 大学の特色及び概要

本学は、1908年（明治41年）に創設された奈良女子高等師範学校を前身としており、2019年に創立110年を迎えました。この間日本における女性の最高教育機関としての役割を担ってきました。

文学部、理学部、生活環境学部、工学部の4学部、大学院人間文化総合科学研究科を擁し、小規模ながらも幅広い分野の研究教育を実施しています。

教員数は約200名、学生数は約2,700名であり、きめ細やかな少人数教育が特徴です。

② 国際交流の実績

54大学（アジア39大学、欧米等15大学）と国際交流協定を締結しています。

本学を卒業・修了した留学生には、母国の大学で教員をしている方も多数います。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 121人、日研生 2人
2022年：留学生数 141人、日研生 1人
2021年：留学生数 148人、日研生 3人
（各年10月1日現在）

④ 地域の特徴

奈良は日本の古い都（710年平城京遷都）で、多くの世界遺産に恵まれた日本有数の観光地です。都市部に比べて物価も安く、大阪・京都へも約40分で行けることから、留学生が「日本語・日本文化」を勉強するには最適の場所です。大学は、世界遺産に指定されている寺社や鹿で有名な奈良公園に隣接しています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行います。

② 研修・コースの特色

伝統文化の息づく古都・奈良で、日本語、日本文化について体験的に学ぶことが出来ます。留学生1人1人にチューターを配置し、生活面、学習面でも細やかなサポートを行います。

③ 受入定員

5名（大使館推薦 4名、大学推薦 1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験N2程度の日本語力を有し、2年以上の日本語学習歴がある女子学生。

⑤ 達成目標

- ・日本や日本文化について学際的に学び、その理解を深める
- ・日本語で論文・レポートを執筆できる
- ・日本語能力試験N1相当の日本語力を身に付ける

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年10月1日 ～ 2025年8月31日
（在籍期間：2024年10月1日～ 2025年8月31日）
修了式は8月を予定



⑦ 奨学金の支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 年間行事・年間スケジュール

10月上旬：渡日

10月：オリエンテーション、歓迎会、生け花教室

11月：茶道体験教室、大学祭、留学生研修旅行

5月：生け花教室、茶道体験教室

6月：日本語スピーチ大会、留学生研修旅行

8月：送別会、修了式

8月下旬：帰国

※その他、留学生と日本人学生の交流事業イベント、研修旅行、奈良のお祭への参加や参観も含めた多数のイベントがあります。



また、「弓道」「競技かるた」「書道」「古美術研究」「箏曲」「能楽」「華道」「茶道」等のサークルに所属できる他、大学が提供する様々な企画に参加することができます。



⑨ コースの修了要件

指定された必修12科目、選択5科目以上を受講し、15科目以上の合格をもって修了証明書（日本語・英語）を発行します。合格科目については成績評価書が発行され、国際交流協定校の学生は、協定に基づいて本籍大学で単位認定を受けることができます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

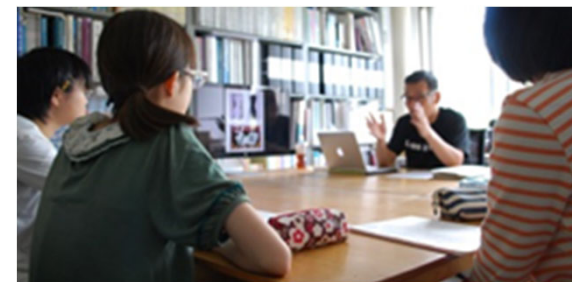
必修である日本語科目の他、日本文化や古都奈良についての科目など、日本に関する幅広い分野の科目を日本人と一緒に受講します。

*は日研生専用科目です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（○コマ数、時間数）・内容

科目名	秋	春	時間数
日本語ⅠA（文法）		○	30
日本語ⅠB（文法）	○		30
日本語ⅠC（読解・漢字）		○	30
日本語ⅠD（読解・漢字）	○		30
日本語ⅡA（聴解）		○	30
日本語ⅡB（聴解）	○		30
日本語ⅡC（作文）		○	30
日本語ⅡD（作文）	○		30
*日本語学基礎講読Ⅰ/Ⅱ	○	○	30/30
*日本語プレゼンテーション		○	20
*☆修了レポート		○	30
計			350



☆ 担当指導教員のもと、4,000字程度の修了レポートを日本語で執筆します。テーマは、担当指導教員と相談して決めますが、日本に関わるものであれば可です。

Ⅱ) 選択科目（○コマ数、時間数）・内容

科目名	秋	春	時間数
ビジネス日本語A		○	15
ビジネス日本語B	○		15
日本事情A		○	30
日本事情B	○		30
国語史概論A		○	30
国語学概論B	○		30
なら学		○	30
なら学+（プラス）	○		30
環太平洋くろしお文化論	○		30
日本の美と芸術		○	30
日本の言語と文学		○	30
ジェンダー論入門		○	30
女性リーダー論		○	30
日本文化と地域社会D(1)/(2)	○	○	30

☆指導教員が認めた場合、上記以外の科目を選択科目として受講することも出来ます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

科目名	秋	春	時間数
スポーツ実習C4 (武道: 剣道、なぎなた)		○	30
奈良を知る	○		15
留学生インターンシップ	○	○	30
コミュニティ・リサーチ		○	30
国際グループワークA/B	○	○	15/15

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

必須科目と一部選択科目を除き、全て日本人学生とともに学習します。特に、参加型科目の「国際グループワークA/B」は日本人学生と留学生の共修を目的とした科目です。



⑪ 指導体制

コースの運営は、国際戦略センターが文学部言語文化学科日本アジア言語文化学コースと連携して行います。担当指導教員は、各留学生の興味の分野に応じて全学より選任します。担当指導教員は修了レポート指導を行います。



■ 宿 舎

① 宿舎数

- ・ 国際交流会館 単身用 36室、
夫婦用・世帯用 各1室
- ・ 国際学生宿舎 単身用 32室

② 宿舎費

【国際交流会館(単身室)】

- ・ 家賃：5,900円/月、
- ・ 退去時清掃費及び光熱水費等：20,000円(入居時)

【国際学生宿舎】

- ・ 家賃：4,700円/月、清掃費：8,000円(退去時)
- ★どちらの宿舎も共益費、光熱水費が毎月別途必要

※ 宿舎周辺の生活情報、通学時間

宿舎は大学から徒歩5分以内にあり、通学に便利です。最寄り駅からも徒歩5分程度で、駅周辺には店も多く、生活にも便利なところです。



※ 宿舎設備・備品

ベッド、机、イス、本棚、クローゼット、トイレ、バス完備。キッチン、洗濯室は共用。



■ 修了生へのフォローアップ

- ・ メールによる個別相談
- ・ 本学大学院への進学相談

■ 問合せ先

<担当部署>

奈良女子大学国際課留学生係

住所： 〒630-8506
奈良県奈良市北魚屋東町

TEL： +81-742-20-3240 (直通)
FAX： +81-742-20-3309
Email： ryugakusei@cc.nara-wu.ac.jp

<ウェブサイト>

奈良女子大学 留学生のためのサイト：
<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/int/ja/index.html>

奈良女子大学：
<http://www.nara-wu.ac.jp/>



和歌山大学 (和歌山県)

～地域とともに学ぶ～ 地域に根ざした和歌山大学で学びませんか？

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

和歌山大学は、1949年（昭和24年）に新制大学として設置されました。本学は、学芸学部（現・教育学部）・経済学部の2学部をもって発足し、1995年（平成7年）10月にシステム工学部を、2008年（平成20年度）4月に観光学部を開設し、4学部からなる和歌山県下唯一の国立大学法人として順調な発展を遂げています。特に本学は学部から大学院（博士前期・博士後期）へ至る一貫した観光学の教育課程を有する国立大学唯一の高等教育機関であり、2017年に国連世界観光機関（UNWTO）が実施する「TedQual認証」を日本で初めて取得し、国際水準の教育を展開しています。

本プログラムでは、日本語・日本文化を学ぶ留学生のための「わかやま日本学プログラム」の科目を履修します。日本語科目および「日本語日本文化研究」の科目以外は、日本人学生との共修科目となっています。

和歌山大学では、留学生ひとりひとりに対して、きめ細やかな指導・支援をしています。

② 国際交流の実績

大学間の交流協定数 58校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数144人、日研生7人

2022年：留学生数144人、日研生9人

2021年：留学生数141人、日研生9人



和歌山大学マスコットキャラクター
わだにゃん

④ 地域の特徴

和歌山は温暖な気候、変化に富んだ海岸線、様々な生き物が棲む美しい海、緑豊かな山々、清らかな河川などの豊かな自然、四季折々の多彩な食材などが誇るべき魅力的なところであり、博物学の巨星南方熊楠、世界初の麻酔手術で知られる華岡青洲、国連が「世界津波の日」を制定して讃える濱口梧陵らが生まれ育ち、活躍した土地です。和歌山大学のある和歌山市は大阪市内から約1時間、関西国際空港から約30分のところに位置する人口約35万人の都市です。和歌山県北部に位置するため大阪、京都、奈良にも近く、県南部には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」もある恵まれた歴史・文化的環境にあります。和歌山市内を一望できる高台にある緑溢れるキャンパスで、伸び伸びと学べる静かな環境が整っています。

また、万葉集に歌われた和歌の浦や和歌山城などの史跡や名所に恵まれた伝統の町でもあります。

地域の方々による異文化交流、NPO支援団体、バディー、学生支援サークル等全面的な留学生支援を活発に行っています。生きた日本語を学ぶ機会に恵まれています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

プログラム担当教員のアドバイスに従って日本語・日本文学・日本文化に関する授業に出席し、また研究を行う。

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・専攻が日本語あるいは日本文化等に関する専攻で学習歴1年以上
- ・「日本語能力試験N3」程度、又は「実用日本語検定J.TEST D級」程度の学力
- ・日本と母国の架け橋人材に相応しい人物

⑤ 達成目標

日本文化を自国の文化と比較することによって、深く理解できるようになります。アカデミック・ジャパニーズを習得し、アカデミックライティングの力をつけます。

日研生は、各自1年かけて修了レポートを書き上げます。それを研修成果報告会で発表します。



<高野山(世界遺産)>



<紀美野町・生石高原>



-028-
<和歌山市・あじろ浜>



⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年9月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

（記載例）

9月下旬 渡日（2024年9月25日予定）
9月末 開講式及びオリエンテーション
10月 第2学期授業開始
10月 秋季留学生歓迎交流会
11月 大学祭
11月 留学生日帰り研修旅行
12月 日本語スピーチコンテスト
2月 第2学期定期試験
4月 第1学期授業開始
4月 春季留学生歓迎交流会
6月 作文コンクール
8月 第1学期定期試験
9月中旬 日研究生修了式及び送別会
9月下旬 帰国（2025年9月25日予定）

⑨ コースの修了要件

取得単位数と修了レポートを総合的に判断して修了を認定します。研修を修了した学生には、修了証書及び成績証明書（和文・英文）、わかやま日本学プログラム認定証明書を交付します。

前期・後期＝必修科目各7科目（14単位）
選択必修科目1科目（2単位）
選択科目3科目（6単位）を含む
11科目（22単位）以上

早期修了は不可能

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

①4技能のレベルアップを目指し、②日本文化体験を通して、異文化理解を深め、③修了レポートを作成する。レポートは、単なる報告ではなく、各自のテーマについて研究した成果をまとめて発表する。

2）研修・コース開設科目

		科目名	時間数	単位
語学	必修	日本語4科目（A～D）	各30時間	各2
		日本語4科目（K～N）	各30時間	各2
研究	必修	日本語日本文化研究A, K	各30時間	各2
日本文化関連	必修	日本学概論	30時間	2
		日本学演習	30時間	2
	選択必修	日本学特論	30時間	2
		日本事情（日本の社会と文化）	30時間	2
	選	ビジネス・コミュニケーション	30時間	2
		世界の中の日本語	30時間	2
		ビジネス日本語	30時間	2
		外国語として学ぶ日本語	30時間	2
	択	<指定した選択科目>※ ・民俗芸能論 ・わかやまを学ぶ ・Survey of Pre-Modern Japanese Poetry in Translation ・Survey of Pre-Modern Japanese Prose in Translation	各30時間	各2
国際連携関連	選	国際開発論	30時間	2
		グローバル社会論	30時間	2
	択	<指定した選択科目>※ ・国際協力論 ・ASEANと日本	各30時間	各2

※指定した選択科目については、変更の可能性があります。



I）必須科目

●「日本語中級/上級A～D, K～N」

日本語日本文化について専門的に学び、研究することができる日本語能力（高度な読解力、テーマを決めて必要な資料を集めまとめる力、レポートや論文を書く力）を付ける。

●「日本語日本文化研究A・K」

日本語日本文化について広く学び、研究レポートを書き、発表する。

●「日本学概論」

社会学、歴史学、民俗学、言語学など多角的な視点から、多言語多文化共生を目指して日本の社会や文化について学ぶ。

II）選択科目

●「日本学演習」（選択必修）

和歌山及び周辺地域でのフィールドワークを通して、歴史や文化などを学ぶとともに、発表までの一連の活動から日本理解を深めていく。

●「日本学特論」（選択必修）

日本の精神文化、ポップカルチャー、女性問題、日本語を取り上げ、ディスカッションにより、それぞれのテーマを深く考える。

●「ビジネス・コミュニケーション」

ビジネス場面で使用される日本語の会話力や文書力を身につける。

●「外国語として学ぶ日本語」

外国語としての日本語の特徴を学び、実際に外国人に教える模擬授業を行う。

●「ビジネス日本語」

日本文化を理解し、さらにビジネスで必要とされる日本語を学ぶ

●「世界の中の日本語」

日本語の特徴を学び、外国人に対する日本語の教え方や、「やさしい日本語」「継承語」など多言語社会における日本語、日本語教育の問題について学ぶ。



<和歌祭・唐人行列>



<日本事情（日本の社会と文化）>



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

●「日本事情(日本の社会と文化)」

和歌山の歴史・文化・伝統芸能を学び、地域の御祭りである「和歌祭」に参加することで、地域の人と交流する機会が持てる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

●「日本学概論」(必修)

●「日本学演習」(選択必修)

●「日本学特論」(選択必修)

●「日本事情(日本の社会と文化)」

●「ビジネス・コミュニケーション」

●「世界の中の日本語」

●「ビジネス日本語」

●「外国語として学ぶ日本語」

●「国際開発論」

●「国際協力論」

日本・和歌山を含めた学生出身国の多様な視点や価値観を理解し、課題に対して新しいアプローチや解決方法を考える能力を身につける。

⑪ 指導体制

1) プログラム指導教員

長友文子教授(日本語教育)

安本博司准教授(日本語教育)

留学生の勉学上の関心に応じて適宜副指導教員が指導します。

2) 指導体制

日本語・日本文化などに関わる国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター教員およびその他の学部の教員が指導にあたります。個々の日本語能力に基づいた細やかな指導を行っています。生活面については、国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センターが指導・助言をします。



<キャンパスの様子>

■宿 舎

和歌山大学では大学に隣接している民間寮(グリーンプラネットハウス)を宿舎として紹介しています。

●部屋のタイプ 単身用(1R)

●宿舎費

月額30,000円(食事なし)

通信費込み、光熱水費自己負担

入寮時に入寮費(45,000円)及び火災保険料(4,800円)を支払う必要があります。

●宿舎設備・備品

個室: ベッド、机、椅子、エアコン、ユニット

バストイレ、バルコニー

共用: ランドリー、自炊室

自転車置き場(無料)、バイク置き場(月額500円)あり

●宿舎周辺的生活情報、通学時間

所在地: 和歌山市中(大学まで徒歩約3分)

最寄駅: 和歌山大学前駅(バス約5分)

周 辺: 大型ショッピングセンター(バス約5分)

コンビニエンスストア(徒歩約8分)



<グリーンプラネットハウス>



<日本語・日本文化研修留学生修了式>

■修了生へのフォローアップ

留学生のための進路指導、就職支援を行っています。また、和歌山大学国際同窓ネットワークにて、日本語・日本文化研修留学生には、帰国後も修了者同士が連絡を取り合えるように国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センターがお手伝いします。

<和歌山大学国際同窓ネットワーク>



<中国(南部)支部>



<ベトナム支部>

■問合せ先

<担当部署>

和歌山大学国際イニシアティブ基幹
日本学教育研究センター 国際交流課

住所: 〒640-8510

和歌山県和歌山市栄谷930

TEL: +81-73-457-7524

FAX: +81-73-457-7886

E-mail: kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp

<ウェブサイト>

和歌山大学国際イニシアティブ基幹
日本学教育センター

<http://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>

和歌山大学ホームページ

<http://www.wakayama-u.ac.jp/>

担当(指導)教員

長友文子(教授)

国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター
メールアドレス: nagatomo@wakayama-u.ac.jp

安本博司(准教授)

国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター
メールアドレス: yasuhiro@wakayama-u.ac.jp



兵庫教育大学 (兵庫県)

自然・文化・人が融和する大学で日本の心にふれることができます！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

兵庫教育大学は、主として現職教員の学校教育に関する高度の研究、研鑽の機会を確保する大学院修士課程、初等教育教員を養成する学部を有する教員養成大学として1978年10月に設置された大学です。

さらに、1995年4月には、わが国初の教員養成系博士課程として、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）が設置されました。

在籍学生は、大学院、学部生あわせて1,500名であり、教員は、あらゆる分野の専門家を擁しています。

学習環境

雄大な播磨平野の一角に位置し、自然豊かな学習環境にあり、40万㎡の広大なキャンパスには、附属図書館、教育研究棟等が機能的に配置され、最新の教育研究設備・機器が整備されています。学生宿舍等も充実し、快適なキャンパスライフが送れるようになっています。

国際的な視野に立つ教員・事務スタッフも充実し、加東市と連携したフレンドシップファミリーのサポート体制も整えています。また、国籍の異なる学生も在籍することから、国際交流の機会も増え、幅広い学習が期待できます。



② 国際交流の実績

大学間交流協定校：31大学

欧米地域：ヴァンダービルト大学ピーボディ教育学部、ウィスコンシン大学オークレア校、ハイデルベルグ教育大学、ルツェルン教育大学、ユヴァスキュラ大学、ラトビア大学、カレル大学教育学部、ミュンスター大学

韓国：ソウル教育大学校、大邱教育大学校、京仁教育大学校、全州教育大学校、公州大学校

中国：華南師範大学、海南師範大学、湖南理工学院、浙江師範大学、寧波大学、東北師範大学、北京師範大学

（台湾）：屏東大学、台中教育大学、台北教育大学、高雄師範大学、実践大学

タイ：チュラロンコン大学、ピブソンクラム地域総合大学

モンゴル：モンゴル国立教育大学

ベトナム：バリア・ブンタウ教員養成大学、ダナン大学

カンボジア：プノンペン教育大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 39人、日研生 1人

2022年：留学生数 23人、日研生 1人

2021年：留学生数 30人、日研生 2人

④ 地域の特色

加東市は豊かな風土に育まれ時代を越えて受け継がれてきた有形・無形の文化財が数多くあります。朝光寺（国宝）をはじめ、国史ゆかりの神社仏閣が多数あり、歴史探訪を誘ってくれます。また、加古川水系に見られる滝など自然に恵まれ、四季折々の変化が楽しめます。フィールド散策等もできます。さらに秋祭りなど地域密着型の行事から、地域の方々とふれあうことができ、日本人の心のふるさと感じさせる伝統文化のある地域です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースは、1年間で日本の原風景に出会い、日本人の心に接することができる「日本の心探訪」コースと言えます。日本語をマスターし、日本文化に対する見識を高めるために各科目の講義、演習をはじめ、日帰り研修旅行などが用意されるほか、国際交流のための講演会、地域の国際交流活動にも参加できるプログラムとなっています。

③ 受入定員

3名（大使館推薦2名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・外国（日本国以外）の大学に在籍し、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学する者で、帰国時点でその大学に在籍している者（1年生を除く）
- ・JLPT：N2相当の日本語能力を有する者

⑤ 達成目標

- ・日本語能力の向上を目指す（JLPT：N1合格）
- ・実体験を通して日本文化を学ぶ

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年10月1日 ～ 2025年9月30日
(2024年10月1日 ～ 2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール
(※予定変更の可能性があります。)

9月下旬：渡日

10月： 秋学期開始
オリエンテーション

11月： 近隣学校への国際交流授業

6月： 日本文化研修

7月： 研究成果発表会

9月： 日本文化体験研修（茶道・華道）
日本語・日本文化研修留学生修了式

9月下旬：帰国（2023年は9月23日）



日本文化研修（姫路城）

⑨ コースの修了要件

1) コースの修了要件

下記の授業科目区分のとおり、20単位以上の単位を取得し、特定の課題についての修了論文（レポート）を作成のうえ、研究発表を行うこと。
また、見学、地域交流型参加科目の参加も行うこと。

日本語	日本文化実習・演習	日本文化講義	特別研究	総修得単位数
2単位以上	2単位以上	2単位以上	4単位	20単位以上

2) 修了証書の発行

第1期・第2期を通じて、上記の修了要件を満たした者に対し、修了証書（英文・和文）を発行します。

3) 修了時に求められる日本語能力のレベル

日本語により修了論文（レポート）を作成し、日本語での研究発表・質疑応答が出来る日本語能力が求められます。



⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本コースは、日本語、日本文化実習・演習、日本文化講義及び特別研究の4つの授業科目からなり、グローバル教育センター所属の日本語教育専門教員のもと、履修登録をはじめとしたアドバイスを受けます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

日本語コミュニケーション・・・日本語講義・演習（15コマ30時間）
外国人児童生徒のための日本語教育・・・日本人学生との共修（15コマ30時間）
日本事情・・・日本の自然、社会、歴史、芸術（15コマ30時間）
特別研究・・・日本語・日本文化研究及び修了論文

II) 選択科目

<日本語>

・国語学Ⅰ・・・現代日本語（15コマ30時間）
・国語学Ⅱ（音声言語及び文章表現を含む）・・・古典学習（15コマ30時間）
・アカデミック日本語・・・日本語の文章作成・発表（15コマ30時間）

<日本文化実習・演習>

・書写・書道・・・書写の指導方法（15コマ30時間）
・工芸実技・・・陶芸、染色、漆芸の作品制作（30コマ60時間）
・合奏演習・・・演奏発表（15コマ30時間）

<日本文化講義>

・文学と読解・・・日本の古典～近代文学の知識習得・読解（15コマ30時間）
・初等社会・・・日本の初等社会科（8コマ15時間）
・暮らしのなかの憲法・・・日本の憲法（15コマ30時間）
・地学Ⅰ・・・地震、火山噴火、気象現象、宇宙（15コマ30時間）
・食物学Ⅰ（食品学及び栄養学を含む）・・・食生活（15コマ30時間）
・食物学Ⅱ・・・食品の成分特性、調理過程の変化（15コマ30時間）
・住居学（製図を含む）・・・住まいのあり方（15コマ30時間）
・初等家庭・・・日本の小学校家庭科（8コマ15時間）
・体育・スポーツ文化論Ⅰ・・・体育・スポーツの本質（15コマ30時間）

※ 2023年4月1日現在の授業科目であり、変更の可能性があります。

※ その他の学校教育学部開設授業科目についても、授業担当教員の許可を得て、履修することが可能であり、修了要件の修得単位に含むことができます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

1. 教育現場体験研修

近隣小・中・高等学校での授業参観及び授業参加を行い、日本の教育現場、教育事情の体験研修を実施しています。

2. 日本文化体験研修

留学生が日本文化に実際に触れ、体験できるよう日本文化体験研修を実施しています。

3. 日本文化実習

地元加東市を中心に、日本の生活習慣を体験するフレンドシップファミリーとの交流行事や、茶道、華道体験を実施しています。



近隣の学校で教育実習体験



茶道体験

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

学校教育学部開設授業科目について、授業担当教員の許可を得て履修し、日本人学部学生との共修が可能です。

<一例>

「外国人児童生徒のための日本語教育」

- (1) 外国人児童生徒の現状や、学校生活における困難についての理解を深める
- (2) 第二言語習得やバイリンガル教育の基礎知識を得る
- (3) 日本語や日本文化（特に学校文化）を相対的に捉える視点を養う

⑪ 指導体制

1) 指導教員

グローバル教育センター所属の大学教員が指導教員となり、留学生の関心に合致した個別指導を行います。

2) 学業面の個別指導

指導教員が一年間を通して履修指導や修了論文（レポート）指導を行います。

3) チューター制度

チューターは、留学生を一对一で支援する日本人の学生のことで、専門分野の学習や日常生活での助言を行います。また良き相談相手、よき友人として留学生生活をサポートします。

4) 相談体制

国際交流会館の外国人留学生相談室で国際交流会館相談主事が留学生からの相談に応じます。

■宿 舎

大学キャンパス内の国際交流会館には外国人留学生専用の単身室が設けられています。



国際交流会館



単身室

■修了生へのフォローアップ

本学を修了後にはメール等により連絡を取り、進路の確認などを随時行っています。また、本学の大学院への進学等についての相談等を行っています。

■問合せ先

<担当部署>

兵庫教育大学教育研究部学生支援課国際交流チーム

住所 〒673-1494

兵庫県加東市下久米942-1

TEL +81-795-44-2043（直通）

FAX +81-795-44-2049

E-mail office-kokusai-t@ml.hyogo-u.ac.jp

<ウェブサイト>

兵庫教育大学: <https://www.hyogo-u.ac.jp/>



ひょうちゃん

鳥取大学 (鳥取県)

学内外での交流を通して、実践的な日本語力を身につけ、日本文化・地域文化について幅広く学びます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

鳥取大学は、地域学部、医学部、工学部、農学部で構成されています。「知と実践の融合」を基本理念として、教育、研究及び社会貢献に取り組み、地域に根差し国際的に飛躍する大学として、多方面にわたって精力的な活動を行い、地域と世界の発展に寄与しています。また、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」（2012年～2016年）に採択された実績があり、グローバル人材の育成に力を入れています。

全ての日本語授業には、常に数名の日本人学生がボランティア参加しています。また、留学生と日本人学生による国際交流チーム（交流の場の企画・運営を行う）もあり、日本人学生との交流の機会が多くあります。

* 学生数・教員数（2023年5月1日現在）

学部学生数：5,150名

大学院生数：1,029名

教員数：788名

② 国際交流の実績

学術交流協定校・機関数：96（31の国・地域）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 183人、日研生 5人

2022年：留学生数 161人、日研生 1人

2021年：留学生数 150人、日研生 1人

④ 地域の特徴

鳥取は、自然が豊かで静かな所で、勉学に取り組むのにとってもよい環境です。海や山があり、新鮮な食材（野菜・魚・肉）も豊富で、物価が安いので生活しやすい地域です。地元の人は皆、親切で温かいので、地域での交流の場にも参加しやすいです。また、大阪、京都などの有名な大都市には、電車やバスで3時間程度で行けます。



鳥取砂丘

鳥取大学周辺へのアクセス方法

（※来日時に大学周辺の駅や空港からの出迎えサービスがあります）

（1）東京から飛行機で到着する場合



（2）関西国際空港から電車を利用する場合



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

科目選択の自由度が高く、研修生の希望により、「日本語」に重点を置いて学ぶことも「日本文化」に重点を置いて学ぶこともできます。地域の行事に参加できる機会が多く、地域社会をより深く理解することができます。

③ 受入定員

8名（大使館推薦 6名、大学推薦 2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・本国において、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学する者
- ・積極的に日本の文化・社会を理解し、自らの文化を発信しようとする姿勢を持つ者

⑤ 達成目標

- ・実践的な日本語力を習得すること
- ・興味のあるテーマについて、研究計画を進めその成果を発信できるようになること

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年10月上旬 ～ 2025年9月下旬
（2024年10月1日 ～ 2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール（※変更あり）

9月下旬：渡日（2023年は9月26、27日）

10月 開講式
新規留学生オリエンテーション
秋学期開始



1月 修了課題テーマ決定
2月 秋学期終了
4月 春学期開始
8月 修了発表会、修了課題の提出
春学期修了
9月 閉講式
9月下旬：帰国（2023年は9月27日）

年間を通して、小・中・高校での交流会、地域の国際交流団体や学内の国際交流サークルのイベントが随時あります。

小学校での交流会



高校での交流会



地域交流イベント



⑨ コースの修了要件

必修8科目、選択4科目以上の合計12科目以上を履修し、かつ日本語・日本文化研修留学生修了課題（レポート）を完成した学生に対し、修了証を授与します。

希望する学生には、全学共通科目及び学部専門科目について単位を付与しますので、在籍大学との単位互換が可能です。単位が付与されない科目については成績証明書を発行します。



⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特色

全学共通科目や学部専門科目、国際交流センターで開設する科目の中から、研修生の興味関心に合わせて自由に科目を選択することができます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（8科目）

<全学共通科目>

・日本語実践I、II

大学生活で必要となるアカデミックスキルを、実践を通して身につけます。

・日本語の表現技法I、II

学習者同士で話し合いながら、伝えたいことを口頭や文章でより適切に表現する方法を学びます。

<目的別日本語コース>

・レポート演習I、II

様々なテーマについて、自分の意見を口頭や文章で発表します。後半は各自のテーマで研究を進め、修了発表を行い、研究レポートを日本語で作成します。

・ケースで学ぶ異文化コミュニケーションI、II

異文化接触の事例を題材としてケース型教材を用いて、異文化理解と日本語コミュニケーション力の向上を目指します。

II) 選択科目（4科目以上）

<全学共通科目>

・日本文化事情I、II

・日本社会事情I、II

幅広い観点からの講義や、自分たちで設定したテーマについて調査を行うことによって、日本の事情を深く理解することができます。

<総合日本語コース>

プレースメントテストでレベルを判断し、それぞれのレベルに合わせて、総合的な日本語能力を身につけます。

<学部専門科目>

指導教員と相談し、地域学部の授業の中から、学生に合ったものを選択します。

※修了研究の内容

日本語・日本文化研修留学生修了課題（レポート）

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等に参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・日本文化事情I、II (前述2) II) の全学共通科目
- ・日本社会事情I、II (前述2) II) の全学共通科目

いずれも、講義・ディスカッションと、見学や交流を有機的に結びつけて授業を行います。

和紙作り



生け花



4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
日本語授業の全てに、日本人学生がサポート参加しています。日本語・日本事情科目以外の全学共通科目と学部専門科目は、全て共修です。全学共通科目「グローバルイシュー」・「世界の中の日本」では、地球規模の課題や、世界の中で日本がどのような位置・役割にあるかなどを、日本人学生と共に英語で学びます。

⑪ 指導体制

学生の興味のある分野に合わせて、地域学部の教員が指導教員になります。また、国際交流センターでも研修生それぞれに担当教員がつき、必要に応じて生活・教育支援を行います。

■宿 舎

名 称： 鳥取大学国際交流会館
所在地： 〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110
電 話： 0857-28-4808
ホームページ：
<https://www.ciatsu.tottori-u.ac.jp/ja/Students-housing-dormitory>

構 造： 鉄筋コンクリート5階建て
部屋数： 1人部屋50室、2人部屋6室、3人部屋3室

居室設備： ベッド、机、椅子、書棚、タンス、シューズボックス、冷蔵庫、電気スタンド、電気ポット、エアコン、煙探知機、Wi-Fi、懐中電灯、トイレ
共同設備： キッチン、シャワー室、洗濯室、ラウンジ、和室があります。

近隣環境： コンビニエンスストア、スーパーマーケットまで徒歩15分



■修了生へのフォローアップ

修了後は、メールやSNSなどを活用し、その後のキャリアパス（進学・就職）について、相談に応じます。



■問合せ先

<担当部署>
鳥取大学学生部国際交流課
住所： 〒680-8550
鳥取市湖山町南4丁目101
TEL： +81-857-31-5056（直通）
FAX： +81-857-31-6065
E-mail： kokuko-gaku@ml.adm.tottori-u.ac.jp

鳥取大学地域学部教務係
住所： 〒680-8551
鳥取市湖山町南4丁目101
TEL： +81-857-31-5077（直通）
FAX： +81-857-31-5076
E-mail： reg-kyoumu@ml.adm.tottori-u.ac.jp

<ウェブサイト>
鳥取大学国際交流センターホームページ
<https://www.ciatsu.tottori-u.ac.jp/ja>

鳥取大学ホームページ
<http://www.tottori-u.ac.jp/>



人とともに 地域とともに

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

島根大学 (島根県)

島根に根づく豊かな文化、四季折々の行事を通して日本が学べます

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

島根大学は法文学部、教育学部、人間科学部、医学部、総合理工学部、生物資源科学部、材料エネルギー学部から構成される、中規模総合大学です(2023年5月1日現在 教員数748名、学生数6049名)。

温かく人情豊かな雰囲気の中で行われる少人数教育が大学の特色の一つで、教員からは授業内外で、きめ細かい指導を受けることができます。そして、世界各国からの留学生や日本人学生と、活発な交流が行えます。

② 国際交流の実績 (2023年5月1日現在)

26カ国100大学・機関と交流協定を結び、学生交流及び研究者交流を行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年: 留学生数247人、日研生3人

2022年: 留学生数230人、日研生3人

2021年: 留学生数228人、日研生0人

④ 地域の特徴

松江市は、宍道湖、日本海、中国山地に囲まれた自然豊かな美しい地方都市であり、国際文化観光都市にも指定されています。国宝・松江城を中心とした城下町には、古くから茶道や和菓子の文化が栄えました。市内には神社や仏閣、史跡、温泉、代々続く老舗、各種文化施設など、楽しみながら勉強できるたくさんの場所が数多くあります。

他県と比べ、在住する外国人が少ないことも、留学生が島根で学ぶ利点となるでしょう。そのため地域の人々との交流の機会も多く、日本語、日本文化を学びたい人、学内外で日本人と積極的に交流したい人にとっては絶好の場所です。治安もよく、冬には時々雪が降りますが、年間を通して気候は穏やかで住みやすいといえます。



【玉陵の丘でお花見】

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

本学の日本語・日本文化研修プログラムでは、下のa)、b)の2つのコースを用意しています。研修生はいずれか1つを選び、それぞれの必修単位を履修してプログラムを修了することが求められます。

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

少人数で行う必須の日本語・日本文化研修生向けの授業により、受講生の日本語レベルやニーズに応じて柔軟に指導内容を検討し、きめ細かい指導を行います。

③ 受入定員

6名(大使館推薦3名、大学推薦3名)

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2レベル程度以上の日本語能力があること。
- ・勉学を最優先として全力で取り組み、修了論文を書き上げる強い意思とやり遂げる努力ができること。
- ・人間性が高く、学内外の日本人、留学生と良好な関係を築ける力、諸活動に参加する積極性、コミュニケーション能力、協調性もあること。
- ・日研生としての自覚と、日本と母国の架け橋人材となる意志を持つ人物であること。

⑤ 達成目標

- 1) 日本語能力試験N2またはN1に合格できるレベルの日本語力を身につけること(来日中の受験を推奨、支援します)。
- 2) 自分自身の研究テーマを設定し、研究内容についてディスカッションでき、最終的に修了論文を書き上げること。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間:
2024年9月下旬～2024年8月下旬
(在籍期間:
2024年10月1日～2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月



【黄泉の国入り口あります】

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（例年は9月下旬）

10月： オリエンテーション

松江祭整行列、松江水燈路 見学

11月： 松江大茶会、八重垣神社 見学

12月： 茶道体験、生け花体験

1月： 正月料理実習

2月： 着物体験

4月： お花見会

5月： 田植え体験

6月： 月照寺 見学

7月： 由志園（日本庭園）見学、学期末試験

8月： 水郷祭（湖上花火大会）、修了式

8月下旬：帰国（例年は8月中～下旬）

⑨ コースの修了要件

・各コース、必須授業（⑩表中の○）を含む、20単位以上を履修すること。

・修了者に対し、修了証明書、成績証明書を発行する。



【日研生による手作りの手すき和紙（右）を使った修了証書】

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

少人数で行うため、教員との関係が深く受講生のレベルやニーズに応じて柔軟に指導内容を検討し、きめ細かい指導を行います。地域の豊富な文化的資源、自然を活用する授業を行います。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

右の表の○印が各コースの必須科目。

※は両コースに共通の必須科目。

日本語総合A・・・日本語論、日本文化に関する多様な文章（エッセー、新聞記事、講演録など）を目的に応じて読む。

日本語総合B・・・日本の歴史を通史的に学び、各時代の社会的、文化的背景について理解し各時代の主要な文学作品を通じて日本語の変遷も知る。

日本語総合C（特別演習）・・・地域に密着した伝統文化や神話、芸能、祭事、歴史的文化財などに関連する資料を生教材として、日本語および日本文化を学ぶ。

日本語総合D（特別研究）・・・各自がテーマを設定して個人研究を行い、ゼミ形式で指導を受け、論文の書き方の基礎を学び、成果を発表する。

II) 選択科目

右の表の△印が各コースの選択科目。

日本語A・・・作文クラス。論理的な文章を書くための表現、語彙を増やしながら、文章の構成や展開パターンを学ぶ。

日本語B・・・読解クラス。語彙力、文法力を高めながら、速読や精読を通じて目的に応じた読み方ができるよう訓練を行う。

日本語C・・・聴解、口頭表現クラス。発表のための調査、考察のスキルを養う。生の情報に接し、日本の社会に対する理解や知識も深める。

日本語D・・・語彙、文法クラス。トピック別の重要語彙やコロケーションを集中的に学ぶ。また、学習者が誤りやすい文法や表現を復習しながら、正確に使えるようになるまで文法力を磨く。

授業名		時間数 【単位数】		○必須 △選択	
		後期 <10月～3月>	前期 <4月～9月>	日本語 コース	日本 文化 コース
必須※	日本語総合A	30【1】	30【1】	○	○
	日本語総合B	30【1】	30【1】	○	○
	日本語総合C	30【1】	—	○	○
	日本語総合D	—	60【2】	○	○
選択	日本語A	30【1】	30【1】	○	△
	日本語B	30【1】	30【1】	○	△
	日本語C	30【1】	30【1】	○	△
	日本語D	30【1】	30【1】	○	△
	日本事情A	30【2】	30【2】	△	○
	日本事情B	30【2】	30【2】	△	△
	異文化理解入門A/B	30【2】	30【2】	△	○
選択	その他 日本語・日本文化に係る専門に 応じた科目	各30	各30	△	○

コース修了要件：必須授業を含む20単位（600時間）以上の履修。 ※は全員必須科目。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

日本事情A・・・日常生活の中に見る日本の文化について知識を深め、その背景にある日本人の考え方や、価値観について理解を深める。

例）八重垣神社、月照寺 見学

日本事情B・・・自然科学の視点から日本、島根県に対する理解を深めると同時に、伝統文化体験を行う。

例）座禅体験、茶道体験、日本庭園見学

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

異文化理解入門A,B・・・異文化理解に関する様々なトピックにもとづいて小グループでディスカッションを行ったり、調査や発表を行ったりする。

⑪ 指導体制

日本語・日本事情担当教員ほか、学生の専門に応じて指導教員が、学業面の指導、生活面の支援を行います。



【柿の収穫体験】



【田植え体験】

■宿 舎

大学から徒歩10分圏内の場所に、留学生用宿舎「国際交流会館」および「学生寮」があります（料金や設備の詳細は右URLを参照）

☞[https://kokusai.shimane-](https://kokusai.shimane-u.ac.jp/kaigairyugakusei/japanese/#housing)

[u.ac.jp/kaigairyugakusei/japanese/#housing](https://kokusai.shimane-u.ac.jp/kaigairyugakusei/japanese/#housing)

国際交流会館には、優しく時に厳しい「お母さん」のような管理人が勤務し、日本人チューターも住んでいます。研修生は、各国からの留学生との1年間の生活を通して友情を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力も身につけることができます。一方、学生寮には日本人学生が多く住んでおり、独立した生活を楽しみながら日本人学生の友達を作ることができます。ただし、近年は留学生数が増加していることから、今後は必ずしも希望者全員が宿舎や寮に入れるという状況ではありません。規則にしたがって入居の優先順位を決めた結果、日研生が入居できない可能性もあります。その場合は、近隣の民間アパートを斡旋します。なお、宿舎費を来日前に求めることはありません。



【国際交流会館】



【学生寮】

■修了生へのフォローアップ

日研生のFacebook同窓会グループを通じて近況ニュースを流し、在学生と修了生が情報を交換したり共有したりできるようにしています。

修了後のキャリアパスの例：

- ・JETプログラムの国際交流員として県庁に勤務
- ・修了生母国の日本大使館に勤務
- ・母国にある日系企業に就職
- ・外国技能実習生の管理団体（東京）に就職
- ・島根大学大学院に進学（※近年増加中。留学中に進学したい大学院研究科を見つけ、帰国後半年程度準備をしたのち、再入学するケースが増えています。）



【宍道湖で修了記念撮影】

■問合せ先

<担当部署>

島根大学国際課留学生交流担当

TEL： +81-(0)852-32-6106（直通）

FAX： +81-(0)852-32-6481

Email： ied-ryugaku@office.shimane-u.ac.jp

<ウェブサイト>

島根大学：

<http://www.shimane-u.ac.jp>



岡山大学 (岡山県)

日本語能力の向上及び日本の文化、社会、経済、法律、教育などに対する理解を深める

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

岡山大学は1949年に設立された国立大学ですが、その前身は1922年設立の岡山医科大学、1900年設立の第六高等学校などで、長い伝統があります。設立後発展を重ね、2021年4月から工学部と環境理工学部を再編統合して新しく生まれ変わった工学部をはじめとし、現在では文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、農学部の10学部2023年4月大学院自然科学研究科と大学院環境生命科学研究科を再編・統合しスタートし、学位プログラム制を導入した大学院環境生命自然科学研究科をはじめとし、教育学研究科、社会文化科学研究科、保健学研究科、医歯薬学総合研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、法務研究科の7大学院を擁する全国で有数の総合大学です。

国際交流に力を入れているのが本学の特色のひとつです。本学に在籍している外国人留学生に対しての日本語教育は、教育推進機構が担当し、受入れや奨学金のサポートは国際部、生活面のサポートや履修指導は受入部局が行っています。

2) 教員・学生数等 (2023年5月1日現在)

教員数：2,500名
学部学生：10,121名
大学院生：3,104名



② 国際交流の実績 (2023年5月)

大学間交流協定数：183件
部局間交流協定数：214件

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

(各年5月1日現在)

2023年：留学生数：911人
日本語・日本文化研修留学生：2人
2022年：留学生数：793人
日本語・日本文化研修留学生：3人
2021年：留学生数：774人
日本語・日本文化研修留学生：1人

④ 地域の特徴

岡山県は日本の西部にある中国地方に位置し、瀬戸内海に面しています。水島工業地帯を抱え工業が盛んであるとともに、農産物や水産物が豊かな県です。岡山は温暖な気候で、地震や台風などの自然災害もほとんどなく、日本で最も安心・安全で住みやすい地域と言われています。

岡山大学のある岡山市は岡山県の県庁所在地で、この地方の政治、経済、教育、文化の中心地のひとつです。岡山市の人口は約72万人です。

岡山市へは交通が大変便利です。新幹線を利用すれば、東京から3時間30分、新大阪から45分で岡山市に着きます



■研修・コースの概要

本コースは次の3種類の授業からなる。

- ①さまざまなレベルやトピックを扱う日本語クラス
- ②日本の文化、経済、法律、教育に関する授業
- ③文学部、法学部、経済学部、教育学部の各学部の日本人学生対象の講義

① 研修・コースの目的

- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日研生は、文学部、教育学部、経済学部、法学部のいずれかに所属し、指導教員の指導を受けます。日本語の能力が特に高い学生は、日本人学生と一緒に受講する教養教育科目や所属学部で専門科目の授業に出席することができます。また、各自の研究テーマに合った演習にも参加できます。

③ 受入定員

5名 (大使館推薦3名、大学推薦2名)

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験のN2レベルの日本語 (語彙6,000語、基本漢字1,000字程度) を習得している者。

⑤ 達成目標

アカデミックな日本語能力を養い、日本に関する専門的な知識を深めること。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

2024年10月1日～2025年8月下旬
(2024年10月1日～2025年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

第3-4学期

9月末頃 渡日
10月 新入生オリエンテーション
授業開始
11月 大学祭
2月 授業終了

第1-2学期

4月 授業開始
8月 授業終了
8月中旬 修了レポート提出
修了式
8月下旬 帰国

⑨ コースの修了要件

各学期、選択科目を6単位以上取り、修了レポートを作成すること。修了時に修了証書を授与します。また、必要がある場合は、成績証明書も発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は原則として、第1・第2・第3・第4学期 各8週間開講されます（うち1週間は期末試験期間）。学生は指導教員と相談の上、自分のレベルや興味に合った科目を履修できます。必修科目は設けていません。

2) 研修・コース開設科目

選択科目

プレースメントテストの結果に基づいて、日本語のクラスを決めます。日本語5は日本語能力試験N2程度、日本語6は日本語能力試験N1程度を目指す学生のためのコースです。応用日本語、あるいは文学部で開講されている上級コースは、既に日本語能力試験N1レベルに達している学生を対象としています。

◇中／上級コース

（教育推進機構外国語教育部門日本語教育系）

授業科目名	概要	時間/ 学期	単位/ 学期
日本語 5 (第1-4学期)	中級後期の総合的なクラス	60	4
多読で学ぶ 日本語2 (第1-4学期)	多量の日本語を読むクラス	15	1
映像で学ぶ 日本語2 (第1-4学期)	ドラマや映画を通して日本語を学ぶクラス	15	1
中級漢字・ 語彙 (第1-4学期)	中級の漢字・語彙を学ぶクラス	15	1
中級文法2 (第1-4学期)	中級後半の文法を学ぶクラス	15	1
日本を知ろう (第1-2学期)	日本の文化や社会について学ぶクラス	15	1
岡山を知ろう (第3-4学期)	岡山について調べながら日本語を学ぶクラス	15	1
メディア・ リテラシー2 (第3-4学期)	情報を批判的に読み取るクラス	15	1
日本語6 (第1-4学期)	上級前期の総合的なクラス	60	4
応用日本語 (書く・読む・ 聞く・話す) (第1-4学期)	上級の(書く・読む・聞く・話す)力を高めるクラス	各15	各1

◇上級コース（文学部・法学部・経済学部）

授業科目名	概要	時間/ 学期	単位/ 学期
日本語 1a/b (第1-4学期)	日本語の小説を読むクラス	15	1
日本語 2a/b (第2, 4学期)	文法とリスニングを学ぶクラス	15	1
日本文化学 a/b (第1, 3学期)	日本文化に関わるテーマについて討論するクラス	15	1
日本語超級 (第4学期)	日本語を専門的に研究しながら、学術的な日本語を学ぶ	15	1
日本経済 事情IA/ IB/IIA/ IIB (第1-4学期)	日本の経済・社会について学ぶクラス	計15週開講で 30時間・2単位	
日本法政 事情 I a/ I b (第1, 2学期)	日本の法律や政治について学ぶクラス	15	1

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

授業科目名	概要	時間/ 学期	単位/ 学期
SDGsからみる日本事情 (第1-4学期)	教育や食、地域など学期ごとのテーマに沿って、日本文化を体験しながら学ぶクラス	15	1

- 4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
日本語の能力が特に高い学生は、上記科目以外に、日本人学生と一緒に受講する教養教育科目や所属学部で専門科目の受講が可能です。

⑪ 指導体制

日本語・日本文化研修留学生を受け入れる学部において指導教員を決め、学業面の指導、生活面の支援を行います。

コーディネーター

長野 真澄（教育推進機構）

堤 良一（文学部）

平田 仁胤（教育学部）

廣田 陽子（経済学部）

河原 祐馬（法学部）



■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は、岡山大学外国人留学生・研究員宿泊施設に優先して入居することができます。

宿舍費は次のとおりです。宿舍費の他に、入寮費 30,000円（返金不可）、光熱水道料金が必要です。宿舍費等の支払いは入居後となります。

○宿舍費（単身用）

・桑の木留学生宿舍：月額 14,000円 ～ 16,000円

・国際学生シェアハウス：月額 23,000円

・国際交流会館：月額 27,000円

・福居留学生宿舍：月額 28,000円

※宿泊費等は改定する場合があります。

※宿泊施設は自分の居室も含め、全館禁煙です。

※配偶者が岡山県在住の場合は宿舍への入居はできません。

※希望する宿舍を選ぶことはできません。

○宿舍設備・備品：

机、椅子、ベッド、ユニットバス、トイレ、ミニキッチン、冷蔵庫、冷暖房機

○宿舍周辺の生活情報・通学時間：

キャンパスまで徒歩10～15分程度。

宿舍横にスーパー徒歩圏内にショッピングモールがあります。

桑の木留学生宿舍



国際学生シェアハウス



■修了生へのフォローアップ

2011年に岡山大学国際同窓会が設立され、毎年総会が開催されています。今後、更に海外での活動を充実させ、日研生を含め、本学修了生へのフォローアップに務めていく予定です。

また、日研生修了生のうち、より深く専門分野を本学で学びたい学生が本学に戻ってくるケースも増えています。



■問合せ先

<担当部署>

岡山大学国際部留学交流課

住所：〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中2-1-1

TEL：+81-(0)86-251-7051（直通）

FAX：+81-(0)86-252-5022

E-mail：dde7046@adm.okayama-u.ac.jp

<ウェブサイト>

岡山大学ホームページ

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学グローバル人材育成院・国際部ホームページ

<https://intl.okayama-u.ac.jp/>



広島大学 (広島県)

・充実した日本語日本事情

・豊富な実地見学

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

1) 特色と歴史

1949年広島文理科大学、広島高等師範学校などを包括して設置された。西日本の教育系大学の代表格としての伝統を持ち、国立大学としては、全国有数の規模と学生数を誇る。12の学部と5の大学院等があり、情報化、国際化、生涯学習及び国際協力へのニーズに対応した教育・研究が行われている。学部・研究科（大学院）以外にも、高等教育研究開発センター、平和センター、森戸国際高等教育学院（以下、森戸学院）、原爆放射線医学研究所などのユニークなセンター・研究所群を持つ。

さらに、教育学部は日本語教育系コースを持ち、日本語教師や日本語教育学の専門家を目指す日本人学生、留学生が勉学に励んでいる。市街地を離れた広大な東広島キャンパスは、自然に恵まれ、静かに落ち着いて勉学に打ち込める環境にある。

2) 教員・学生数等

[2023.5.1現在]

教員	1,732名
学部学生	10,612名
大学院生	4,526名

②国際交流の実績 [2023.5.1 現在]

大学間交流協定数	400協定	56カ国	354機関
留学生在籍数	1,726名	85カ国(地域)	

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	留学生数	日研生数
2023年	1,726名	2名
2022年	1,638名	1名
2021年	1,650名	1名



④ 地域の特徴

広島市、東広島市が位置する県南部は、瀬戸内海に面し、気候は温暖で、四季に恵まれ、海苔やカキの養殖が盛んである。また、北部の中国山地は神楽などの伝統芸能が盛んで、「たたら（現在の製鉄所）」の遺跡も多い。

広島市は世界最初の被爆都市であるが、政令指定都市となった現在は、国際平和都市として市民グループの活動も活発で、平和や国際協力に関する留学生との国際交流活動に参加できる機会にも恵まれている。

東広島市は、広島市の東約30キロの盆地の中にあり、古くから酒どころとして有名である。現在は、広島大学、他の私立大学また国や多くの企業の研究施設も移転してきており、研究学園都市として急速に発展している。また、半導体、電気・電子機器等製造業の進出が近年盛んで、人口も急速に増えている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

②研修・コースの特色

本プログラムは、必修の「日本語・日本文化特別研究」、指導教員のもとで行われる「課題研究」、およびそのレポートの作成、そして全学向けの「日本語・日本事情科目」から選択して履修する授業を3つの柱としている。

必修科目である「日本語・日本文化特別研究」では、森戸学院、また学内の教員の協力を得て1回完結の講義の中で日本語と日本文化、日本社会について知識を広めるとともに、広島市を始め、広島県内および中国地方、瀬戸内海周辺で実施する多くの見学を通じて、直接日本文化に接しながら日本の歴史、文化、風俗および平和の尊さについて学ぶ。

全学の留学生に開講されている「日本語・日本事情科目」の中上級レベルであるレベル4、上級レベルであるレベル5のクラスから、自身の日本語能力と興味・関心に応じて授業を選択する。

「課題研究」では、日本語学、日本語教育学、日本文化学などの専門家である指導教員の個別指導のもと、日本語・日本文化の分野で専門水準の研究を行う。また、自身の興味、専門に応じ、指導教員と相談したうえで、総合科学部、文学部、教育学部、経済学部等で開講されている日本人学生向けの授業を聴講することも可能である。

研修生には学生サポーターがつき、居住・大学生活に関する支援をおこなっている。さらに、学内の様々な国際交流イベントも紹介され、参加する機会がある。

さらに、森戸学院には数多くの日本映画とアニメのDVDソフトが用意されており、これらを活用した授業が行われているだけでなく、授業の一環として視聴を奨励している。

また、森戸学院では、各留学生が指導教員の個別指導のもとに行った「課題研究」をまとめ、毎年、研修レポート集として発行している。

③ 受入定員

20名（大使館推薦 16名、大学推薦 4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講できる者は、文部科学省の規定に基づく大使館推薦による者の他、大学間協定、ないし部局間協定に基づく大学推薦の学生とし、以下の要件を満たす者とする。

- 1) 日本語能力：日本語能力試験N2以上の高い日本語能力を有する者、あるいは有すると見なせる者。
- 2) 日本研究学習歴／専攻：日本語を2年以上学び、日本語・日本文化を主専攻とする者。大学1年生は対象としない。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化の分野で1年間、指導教員の個別指導のもと卒業論文の水準の「課題研究」を行い、研修修了時に日本語レポートとしてまとめるとともに、研修成果発表会で発表を行う。これにより、テーマについての基礎的な知識、テーマ設定、研究構想等の基本的な研究遂行能力、原稿作成、口頭発表に必要な日本語能力を獲得する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年9月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月下旬 渡日（2023年は9月28日）
- 10月上旬 開講式、オリエンテーション
- 3月下旬 瀬戸内海しまなみ研修旅行（愛媛県松山市1泊2日）
- 4月下旬 研修レポート構想発表
- 7月中旬 研修レポート中間発表
- 7月下旬 古事記・風土記の旅（島根県松江市・出雲市1泊2日）
- 9月上旬 修了式、研修成果発表会
- 9月下旬 帰国

⑨ コースの修了要件

- 1) 必須科目
 - ・「日本語・日本文化特別研究I・II」前後期それぞれ週2コマ（4単位）
 - ・「研修レポート（課題研究）」の提出
構想発表、中間発表、研修成果発表会9月実施への参加を含む
- 2) 選択科目
森戸学院において、全学向けに開設されている日本語科目から各自のレベルに応じ（レベル5の者はレベル5の科目から、レベル4の者はレベル4とレベル5の科目から）、前後期それぞれ3コマ（6単位）以上を選択、履修。
- 3) 修了証書
修了式において「修了証書」が授与される。
- 4) 成績証明書
求めに応じて成績証明書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

- 1) 研修・コース科目の特徴
必修科目である「日本語・日本文化特別研究I・II」で行われる森戸学院、学内の教員による特別講義において、日本語・日本文化・日本事情に関する幅広い知識を身につけることができる。また、同科目で実施される見学により、地元、広島県の産業、文化、戦国時代から日清、日露、第二次世界大戦を経て現在に至る歴史についての知識・理解を深め、さらには、しまなみ海道から愛媛県に及ぶ研修旅行、島根県の松江・出雲への研修旅行によって、広島を囲む瀬戸内圏、古事記・風土記から現代に至る歴史、文化的基層についての知識・理解を深めることで、広島から「日本」を知り、理解することを目指す。
また、森戸学院で提供される多くの日本語科目から、自分に合った授業を選択・履修することで、日本語能力を磨き、研究や仕事で使える日本語を身につける。
これらの必修科目、選択科目を履修することで身につける知識、能力をベースに、指導教員の個別指導のもと、大学院への進学、日本、日本語に関連する職業に就くことを見ずえ、卒業論文水準の「課題研究」を行う。
- 2) 研修・コース開設科目
I) 必須科目（コマ数、時間数）・内容
「日本語・日本文化特別研究I・II」
（前後期 各週2コマ、120時間）…特別講義、見学
「研修レポート（課題研究）」
指導教員による指導、レポートの提出

II) 選択科目（コマ数、時間数）・内容

- レベル5（各週2コマ 各32時間）
1・3ターム
「日本語上級 分析A、B」…作文
「日本語上級 語彙A、B」…語彙
「ビジネス 日本語A、B」…ビジネス日本語
2・4ターム
「日本語上級 映像A、B」…映像作品を視聴し日本語を学ぶ
「日本語上級 聴解A、B」…聴解
「日本語上級 読解A、B」…読解
- レベル4（各週2コマ 各32時間）
1・2ターム
「日本語 中上級 A-1、2」…文法、読解
「日本語 中上級 B-1、2」…語彙、聴解
3・4ターム
「日本語 中上級 C-1、2」…文法、読解
「日本語 中上級 D-1、2」…語彙、聴解



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・「日本語・日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」
広島見学（広島城・平和公園）、宮島見学、酒造見学
マツダ（自動車工場）見学、福山見学、尾道見学、呉見学
- ・瀬戸内海しまなみ研修旅行（愛媛県松山市1泊2日）
- ・古事記・風土記の旅（島根県松江市、出雲市1泊2日）
- ・広島ホームステイ協会による、ホストファミリーの紹介、交流イベント
- ・煎茶実習



4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
この研修プログラムに日本人学生との共修授業は設けていないが、日本人学部生を対象として開講される全学教養科目や、文学部、教育学部などの専門科目の受講を勧め、支援している。

⑪ 指導体制

1) プログラム実施委員 所属:森戸国際高等教育学院
石原淳也 准教授（言語学・日本語音声学・音韻論）

2) 指導体制
森戸学院に所属する全ての教員および一部の教育学部、文学部、総合科学部教員が指導教員として本プログラムに参加し、学生の学業、生活両面にわたり指導・助言を行っている。

3) 助言・カウンセリング
留学生に対する助言・カウンセリング等は、以下の場所で行われている。
・保健管理センター
・所属学部の留学生専門教育教員（教育学部配置学生のみ）

■宿 舎

広島大学の留学生数の増加にともない、全ての者が広島大学内の留学生用宿舎、東広島市内の公的宿舎へ入居できるとは限らない。やむを得ず民間アパートに入居しなければならない場合もある。

・過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

	国際交流 会館	サンスクエア 東広島	民間 アパート	計
2023年度	2	0	0	2
2022年度	1	0	0	1
2021年度	1	0	0	1

- ・広島大学の留学生用宿舎
「国際交流会館」：広さ13.3㎡、家賃5,900円/月、
共通経費2,500円/月、森戸学院まで徒歩20分・
自転車7分
「広島大学留学生用借上宿舎」：広さ15㎡～17㎡
家賃8,000～18,000円/月、敷金20,000円
- ・その他
「サンスクエア東広島」：広さ17.46㎡、家賃23,500円/月（共益費込み）、シーツ代6,000円、
敷金40,000円、森戸学院までバス15分・自転車25分、
留学生用の公的宿舎
「民間アパート」（平均的相場）：広さ15㎡～17㎡、
家賃25,000円～45,000円/月、共益費1,000円～3,000円
敷金 家賃の1～3ヶ月分、礼金 家賃の約1ヶ月分、幹
旋料 家賃の約1ヶ月分

奨学金支給までの生活費、宿舎入居のための資金として、10万円程度を用意しておくことが望ましい。



■修了生へのフォローアップ

- ・日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集を修了生本人と所属（出身）大学へ送付
- ・修了生のレポートPDFを森戸学院ホームページにリポジトリ登録し、閲覧可能
- ・修了した研修プログラムの記録を森戸学院ホームページに保存し、閲覧可能
- ・研修プログラムの最新の動向を知らせるため修了生をメーリングリストに登録

■問合せ先

<担当部署>
広島大学森戸国際高等教育学院
住所：〒739-8524 広島県東広島市鏡山
1丁目1番1号 広島大学教育棟K305
TEL： +81-82-424-6286（直通）
FAX： +81-82-424-6286
Email: morito-office@hiroshima-u.ac.jp

<ウェブサイト>
広島大学森戸国際高等教育学院
https://www.hiroshima-u.ac.jp/international_center